

履修ガイド

Class handbook 2026

2026年度

技能工芸学部



ものづくり大学
INSTITUTE OF TECHNOLOGISTS

ものづくり大学 基本理念

1. ものづくりに直結する実技・実務教育の重視
2. 技能と科学・技術・経済・芸術・環境とを連結する教育・研究の重視
3. 時代と社会からの要請に適合する教育・研究の重視
4. 自発性・独創性・協調性をもった人間性豊かな教育の重視
5. ものづくり現場での統率力や起業力を養うマネジメント教育の重視
6. 技能・科学技術・社会経済のグローバル化に対応できる国際性の重視

本学の目的および使命

高度な技能と技術を融合した実践的な技能工芸に関する教育及び研究を行い、加えて豊かな社会性・創造性・倫理性を身につけた技能技術者を育成することを目的とし、あわせてものづくりに対する社会的評価の向上と世界の発展に貢献することを使命とする。

ディプロマ・ポリシー（技能工芸学部）

本学は建学の基本理念に則り、ものづくりに対する社会的評価の向上と世界に貢献することを使命とし、高度なものづくりに対応できる基礎学力と専門的知識および高度な技能技術を持ち合わせたテクノロジストを育成し社会に輩出することを目的にしている。

特に、本学を卒業するテクノロジストには、ものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らに一流の仕事を要求し、常に基準を高く定め、ものづくりにアプローチすることが期待されている。

そのためにテクノロジストとして必要な基礎学力、専門的知識、技術技能に合わせ、以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位（技能工芸学）を授与する。

- ① ものづくりを実践することから得られる創意工夫する力(現場力)
- ② 課題を見出しチームで協力したり、リーダーとなって解決する力(課題設定・解決力、マネジメント力)
- ③ 困難に向き合い乗り越える力（耐力、胆力）
- ④ 異文化など多様性を受容、尊重でき、科学技術、社会経済のグローバル化に対応できる力（協調力）
- ⑤ 価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合える力（コミュニケーション力）

2026年度 ものつくり大学 履修ガイド目次

A. 履修要項（両学科共通）1

1. 基本事項3

- (1) 年間スケジュール
- (2) 事務取扱時間
- (3) 掲示・連絡
- (4) 教員への連絡
- (5) ホームルーム
- (6) 住所等の変更
- (7) 自然災害等による JR 高崎線の運行停止や
気象条件の悪化が予測される場合の授業
(試験を含む) の取り扱い
- (8) 履修要項の適用
- (9) 学生証

2. 学籍6

- (1) 在学期間
- (2) 留年
- (3) 休学
- (4) 退学
- (5) 除籍
- (6) 停学
- (7) 再入学
- (8) 転学科
- (9) 外国人留学生

3. 授業8

- (1) 授業期間
- (2) 授業時間
- (3) 授業時間割
- (4) 振替授業日
- (5) 休講
- (6) クラス
- (7) 授業への出欠
- (8) 補講・補習・補充授業等

4. 単位制と科目区分10

- (1) 単位制
- (2) 単位数の基準
- (3) 科目区分
- (4) ナンバリング

5. 履修12

- (1) 履修登録期間
- (2) 履修登録方法
- (3) 履修登録結果の確認
- (4) 履修登録変更
- (5) 履修削除
- (6) 履修上限 (CAP 制)
- (7) 重複履修
- (8) 所属年次以外の授業科目の履修
- (9) 他クラス・他コースの授業科目の履修
- (10) 集中講義等
- (11) 他学科授業科目
- (12) 放送大学
- (13) 協定大学が提供する授業科目
- (14) カリキュラム年度と新規科目等
- (15) ルーブリック

6. インターンシップ16

- (1) インターンシップの種類
- (2) インターンシップの履修条件

7. コース選択（主専攻）と

研究室配属（卒業研究および制作） 18

- (1) コース配属（主専攻）
- (2) 研究室配属
- (3) 副専攻
- (4) 主専攻・副専攻の証明書等への表記について
- (5) 卒業研究および制作（必修）

8. 試験20

- (1) 試験の受験資格
- (2) 試験の方法
- (3) 試験の実施時間等
- (4) 入退室・遅刻
- (5) 受験上の心得
- (6) 不正行為の取扱い

9. 成績評価及び単位の認定22

- (1) 成績評価の区分
- (2) 成績の取扱い
- (3) 成績発表
- (4) 成績質問申請
- (5) GPA 制度について
- (6) GPA の算出方法
- (7) 成績の席次
- (8) 学修指導
- (9) 追試
- (10) 他大学等で履修した単位の認定
- (11) 放送大学で履修した単位の認定

10. 卒業要件26

- (1) 卒業要件
- (2) 卒業見込証明書
- (3) 卒業の時期
- (4) 早期卒業

B. カリキュラム（情報メカトロニクス学科）29

- I. カリキュラム（教育課程）
- II. 授業科目

C. カリキュラム（建設学科）53

- I. カリキュラム（教育課程）
- II. 授業科目
- III. 資格関連指定科目

D. 教養教育87

- I. カリキュラム（教育課程）
- II. 授業科目

A. 履修要項

(両学科共通 2026 年度入学者適用)

※履修要項は入学時から卒業までの修学規定を定めたものであるため、これをしっかりと熟読のうえ、学業計画をたててください。

1. 基本事項

履修とは、「決められた学科・課程などを習い修めること（広辞苑）」を意味します。

大学では学生が自ら履修計画を立て、履修登録を行い授業に出席し合格点以上の成績をとることで、単位を修得します。履修登録をはじめとして各種申請や届出等については、学生本人の責任において定められた期限を厳守しなければなりません。

※ 学生生活全般に関わる各種申請、届出の詳細は、「ものづくり大学学生便覧 学生生活ガイド」（Web）で確認してください。

(1) 年間スケジュール

毎年4月のガイダンスでの配布資料や「ものづくり大学学生便覧 学生生活ガイド」（Web）、掲示やHPなどで確認できます。

(2) 事務取扱時間

- ① 事務窓口の取扱時間は次のとおりです。土・日・祝祭日や時間外の取扱いはありません。

教務係	月～金曜日	9：00～17：30
学科事務室	月～金曜日	8：45～17：30

※ 入学試験日等、構内立入禁止となる場合、窓口業務は行いません。

※ 祝祭日が授業日となる場合、窓口業務を行います。

- ② 証明書自動発行機（大学本部棟1階学生ロビー）の稼働時間は次のとおりです。

月～金曜日	9：00～17：30
-------	------------

※ 事前に大学HP 証明書オンライン申請サービスでの申請が必要です。

※ 入学試験日等、構内立入禁止となる場合、利用できません。

※ 祝祭日が授業日となる場合、証明書自動発行機は利用できます。

(3) 掲示・連絡

- ① 大学から学生への連絡は掲示等によって行います。掲示等を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

休講、教室変更、ガイダンス開催日時、呼出し等、必ず各学科の掲示板、授業担当教員からの指示を確認してください。遠隔授業に関する情報等はGoogle Classroomで行われる場合もあります。

講義関連情報はポータルシステムの休講補講一覧からも見ることができます。

- ② 授業の情報や履修に関する問い合わせは、電話では受け付けません。掲示を確認するほか、必要のあるときは、教務係窓口で相談してください。

(4) 教員への連絡

学生から教員へ連絡や相談がある場合は、授業の前後やメール等によりアポイントをとり、研究室を訪ねるか、オフィスアワー（教員が相談のために研究室在室とする時間）を利用してください。教員のアドレスは、ポータルシステムから確認できます。

非常勤講師の場合は個人研究室がありませんので、授業の前後にアポイントをとるようにしてください。（非常勤講師が担当する授業には、常勤の窓口教員が配置されていますので、窓口教員に相談することも可能です。）

(5) ホームルーム

本学では、研究室に配属されるまでクラス担任制度を導入しており、クォータごとの成績発表の時期に合わせてホームルームを実施します。ホームルームでは、履修や修学に関することや学生生活について相談することができます。

(6) 住所等の変更

学生・保証人の住所、連絡先等に変更があった場合は、大学 HP「連絡先等情報の変更申請」より手続きを行ってください。

(7) 自然災害等による JR 高崎線の運行停止や気象条件の悪化が予測される場合の授業（試験を含む）の取り扱い

①前日の午後の時点で、翌日の天候悪化、交通機関の混乱など、授業への支障が予測される場合	午後 4 時までに学内の掲示やホームページで休講等の措置を周知
②当日の午前 6 時の時点で高崎線が東京と高崎の間で運行されていない場合	1・2 時限を休講 午前 6 時にホームページで周知
③当日の午前 9 時現在において高崎線が東京と高崎の間で運航されていない場合	3 時限以降休講 午前 9 時にホームページで周知

遅刻は、各人が授業担当教員に事情を説明し授業担当教員の指示に従って出席の確認を行ってください。電車の遅延による遅刻の場合、吹上駅等の遅延証明書は不要です。

安全に配慮し、余裕をもった通学を心掛けてください。欠席や遅刻の扱いは、授業担当教員が判断します。

(8) 履修要項の適用

本履修ガイド及び履修に関する規定は、入学年度のものを卒業まで適用します。

但し、授業科目名や授業担当教員の変更、新規授業科目の開講等もありますので、ガイダンスへの出席及び掲示等で確認してください。

(9) 学生証

学生証は、ものづくり大学の学生であることを証明するものです。必ず携帯してください。

学生証は、学期末試験の受験やコンピュータ演習室等への入室、図書館・メディア情報センターでの本の借受、通学定期の購入などで必要となります。

学生証は折り曲げたり、強い磁気等の傍において異常が発生したりしないように、丁寧に保管してください。

学生証の紛失、破損等をした場合は、速やかに再発行手続き（大学 HP で手数料 3,000 円の支払いを済ませてから）を教務課窓口で行ってください。

2. 学籍

(1) 在学期間

本学の学部教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）は4年であり、編入学生等を除き、原則として、卒業までに4年以上の在学期間が必要です。また、編入学生を除き在学可能な最長期間（在学年限）は8年間です。

8年間もしくは所定の在学年限を経過しても、卒業要件を満たさなかった場合は除籍となります。なお、休学期間は在学年限に含めません。また、停学期間は修業年限に含めませんが（1ヶ月以下の停学はこの限りではない）、在学年限には含めます。

(2) 留年

進級時における留年制度はありません。4年次終了時に卒業要件を満たさなかった場合は、留年となります。卒業要件については、後述の「10. 卒業要件」を参照してください。

(3) 休学

病気、ケガ、その他やむを得ない理由により2ヶ月以上修学できない場合は、担任教員に相談後、教務係窓口にて休学願を提出してください。

休学期間が満了した場合は、自動的に復学となります。許可された休学期間の途中で復学する場合は、担任教員に相談後、教務係窓口へ復学願を提出してください。

休学中は、授業料等学生納付金を減免します。

なお、未納の授業料等がある場合は、願い出が許可されない場合があります。

(4) 退学

退学には、自主退学を希望し許可される場合と、懲戒処分により退学を命じられる場合があります。

退学を希望する場合は、担任教員に相談後、教務係窓口へ退学願を提出してください。退学許可日は各クォータ末日付けとなります。退学までの授業料等学生納付金は徴収されます。

なお、未納の授業料等がある場合は、願い出が許可されない場合があります。

(5) 除籍

次の者は、除籍となります。

- ① 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ② 在学可能な最長期間（8年）を超えた者
- ③ 休学可能な最長期間（通算4年）を超えてなお修学できない者
- ④ 死亡または行方不明の者
- ⑤ その他、①～④と同等の事由により、学長が除籍相当と判断した者

(6) 停学

停学を命じられた場合は、停学期間中の授業科目の履修はできません。無期停学の場合は解除日の翌日から復学、有期停学の場合は期間満了の翌日から復学となります。

(7) 再入学

本学を自主退学した後に再度入学を希望する場合は、入学を希望する学期の2ヶ月前までに入試課窓口で所定の手続きを行ってください。

出願できる学科は、在学時に所属していた学科に限ります。

(8) 転学科

転学科を希望する場合は、担任教員に相談の上、教務係窓口で所定の手続きを行ってください。

転学科の許可は、原則年度初め(4月)となります。

(9) 外国人留学生

大学は、在籍管理を徹底して行うことが義務付けられていることから、外国人留学生は、毎月、決められた期間に学生課で月次在籍管理を行ってください。

在留カードは、留学生としての身分を証明するものです。学生証と同様、必ず携帯してください。

3. 授業

本学では、クォータ（4 学期）制により、一つの授業科目が比較的短期間で完結します。併せて、実習・実験・演習を取り入れた授業科目が多いことから、学生の積極的な授業への参加が求められます。

授業科目の内容等は、後述の「B. C. カリキュラム」、及び web シラバスを必ず参照してください。

(1) 授業期間

クォータ（4 学期）制により、授業を実施します。授業期間は年間スケジュールで確認してください。

1 クォータは 7 週間で授業を 7 回実施し、引き続き補講・補習週で構成されています。補講・補習については後述の「(8) 補講・補習・補充授業等」を参照してください。

※ 授業期間の他に、土日や夏季・学年末休業中に開講する集中講義があります。授業開講日等は、掲示または時間割表を確認してください。

(2) 授業時間

授業時間は 1 時限（1 コマ）＝100 分とし、次のとおりです。

時限	時間
1	9：00～10：40
2	10：50～12：30
昼休み	12：30～13：30
3	13：30～15：10
4	15：20～17：00
5	17：10～18：50

※ 5 時限目は、配当される授業のほか、補講・補習・補充授業、各種のガイダンス等があります。

(3) 授業時間割

授業時間割表はガイダンス等で配布するほか、ホームページで公表します。

開講時間や教室の変更は、授業担当教員が指示を行うか、掲示等を行いますので、毎日確認してください。

(4) 授業日・休業日

授業および夏季休業、冬季休業、学年末休業は、年間スケジュールで確認してください。年間スケジュールは、掲示板の他 HP でも公表します。

なお、祝日の授業や平日の休業日もあるので、注意してください。

(5) 休講

授業担当教員にやむをえない事情が発生し授業が休講になる場合は、掲示等で連絡します。

休講の連絡がなく、授業開始時間から 20 分経過しても授業が行われない場合は、教務係窓口で確認してください。

(6) クラス

授業は、学科別、クラス別またはコース別に実施します。クラスによって開講場所等が異なりますので、所属するクラスで受講してください。

授業によっては、開講前に行われるテストにより、能力別クラスとなる場合があります。

(7) 授業への出欠

授業の出席はポータルシステムの学生出欠登録からワンタイムパスワードを入力し、出席登録を行います。授業には必ずスマートフォン等を持参してください。また、遠隔授業の出席は Google Classroom を活用するなど、科目ごとに出席の取り方が異なる場合がありますので注意してください。

学生本人の都合や体調不良等で欠席する場合の電話連絡は不要です。

ただし以下の理由に限り、「欠席届」を提出することができます。提出された欠席届は授業担当教員に渡します。

欠席理由	欠席届の配布及び提出先
忌引き（3 親等以内）	教務係窓口 （会葬礼状を添付し提出）
2 週間以上の長期欠席（疾病、入院等）	教務係窓口 （診断書や必要な療養日数等が明記された診断書を添付し提出）
インフルエンザ、COVID-19、ノロウイルス等の感染症	
就職活動	就職・インターンシップ係窓口
企業主催のインターンシップ	

遅刻は、各人が授業担当教員に事情を説明し授業担当教員の指示に従って出席の確認を行ってください。電車の遅延による遅刻の場合、吹上駅等の遅延証明書は不要です。

安全に配慮し、余裕をもった通学を心掛けてください。欠席や遅刻の扱いは、授業担当教員が判断します。

(8) 補講・補習・補充授業等

時間割で公表された授業以外に補講・補習・補充授業を実施することがあります。

- ① 補講は、休講等によって授業回数が不足した場合に実施する授業です。
- ② 補習は、受講学生の習熟度をさらに深め、単位修得を支援する授業です。受講については授業担当教員から指導があります。
- ③ 補充は、不合格となった学生を対象に翌学期以降に受講学生の単位修得を支援するために実施する授業です。受講については授業担当教員から指導があります。補講・補習・補充授業は、原則として 5 限目や第 8 週（補講・補習週）に実施されます。詳細な実施方法については、授業担当教員から事前に告知があります。

4. 単位制と科目区分

(1) 単位制

履修登録した授業科目の授業に出席し、かつ合格点以上の成績をとることで、科目の定める単位を修得することができます。通常、4年以上在学し、修得単位が卒業要件を満たした場合に卒業が認められます。

(2) 単位数の基準

各授業科目の単位数は、授業の形態によって授業の総時間数と予習・復習などの自習時間（時間外学修）の合計学修時間数を基準としています。1単位の修得に必要な学修時間数は次のとおりです。

	授業	自習	参考
①講義・演習	15 時間	30 時間	1 コマ授業 1 クォータ履修＝1 単位
②実験・実習	30 時間	15 時間	2 コマ授業 1 クォータ履修＝1 単位
③講義および実習	30 時間	37.5 時間	2 コマ授業 1 クォータ履修＝1.5 単位

(3) 科目区分

授業科目の区分は、授業の実施形態による二つの形態区分と、履修上の分類による三つの履修区分があり、学科ごとに指定されています。

科目区分	
形態区分	教養科目
	専門科目
履修区分	必修科目 卒業要件として必ず履修し、原則として当該年度に単位を修得しなければならない科目です。単位を修得できなかった場合は、再履修して単位を修得する必要があります。
	選択必修科目 指定された一群の授業科目の中から選択して履修し、卒業要件として定められた単位数以上を修得する必要のある科目です。
	選択科目 開講授業科目の中から、自由に選択して履修でき、合格した場合は卒業要件としての総単位数に算入されます。不合格の場合、再履修するか否かは任意です。

(4) ナンバリング

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。

本学では次のとおり表記しています。

所属学科などの属性 科目配当 順序・カリキュラムツリーとの関連
 （第1区分） — （第2区分） — （第3区分）

履修希望科目の受講のために、履修しておくことが望ましい又は修得が要件となる場合があります。

履修計画を立てる際に、必ず、カリキュラムツリーと共にナンバリングを参考にしてください。ナンバリングについては、後述の「B. カリキュラム」を参照してください。

第1区分：所属学科などの属性

- 【1桁目】学科等：大学院(G)、情報メカトロニクス学科(M)、建設学科(B)
- 【2桁目】学年：1年～4年、大学院1,2年(1～)
- 【3桁目】コース等：情報メカトロニクス(A/R/M/P)、建設(T/S/F/D)、
共通C(教養教育・コース配属前：1年次から2年次2Qまで)

第2区分：科目配当

- 【4桁目】履修区分：必修(1) 選択必修(2) 選択(3)
- 【5桁目】科目区分：教養科目(1) 専門科目(2) IS(3)
- 【6桁目】授業形態：講義(1) 演習(2) 講義および演習(3)
実験実習(4) 講義および実験(実習)(5)

第3区分：順序・カリキュラムツリーとの関連付け

- 【7桁目】分野：a b c d . . .
- 【8・9桁目】コード：0 1～

5. 履修

大学での授業は、学生各自が自主的に履修計画を立て、指定された期間内に所定の手続きを行って履修登録をしなければなりません。

原則として、所属する年次に配当された授業科目、所属するクラスの授業科目を履修します。それ以外の場合は後述の「(8) 所属年次以外の授業科目の履修」「(9) 他クラス・他コースの授業科目の履修」を参照してください。

履修の手続きは、ものづくり大学ポータルシステム（以下ポータルシステム）を利用して行います。

(1) 履修登録期間

履修登録は、指定された期間内に行わなければなりません。**指定された期間以外は登録できません。**

本学では、次年度の授業科目の履修登録を前年度に実施しています。この登録で、実習などの定員が設けられている科目の登録者を調整します。

履修登録期間は、掲示板等で履修・成績スケジュールを確認してください。

(2) 履修登録方法

各自、指定された履修登録期間内に、ポータルシステムにより、履修科目を登録してください。入力方法や入力すべき履修期間の日程等の詳細は、事前に掲示等を行います。

履修登録期間を過ぎた場合は登録できませんので、注意してください。また、休学中あるいは長期欠席等により履修登録できない場合には、担任教員または教務係に相談してください。

1年次の第1クォータに履修すべき授業科目は、すべて登録されているため登録作業は不要です。第2クォータの授業科目から各自で登録することになります。このためのガイダンスの日程は、別途掲示等でお知らせします。

(3) 履修登録結果の確認

履修登録した結果を確認するための履修登録・変更期間があります。指定の期間内にポータルシステムで登録結果を確認し、登録ミスがある場合は必ず履修変更の手続きをしてください。

(4) 履修登録変更

履修登録の変更を希望する場合は、履修登録・変更期間に、ポータルシステムより行ってください。履修変更期間を過ぎた場合は変更できません。

授業担当教員の承認が必要な場合は、メールにて履修申請を行った後、教務係窓口にて手続きを行ってください。

計画的に行動し期限内に手続きを完了してください。

(5) 履修削除

授業に出席してみて、授業の内容が学びたい内容と違う、授業の内容が難しくついていけないなど、受講目的が達成されない場合に履修を削除することができます。授業を履修せず履修削除を行わない場合、GPA（「9. (5) GPA制度について」を参照）が下がってしまいますが、履修削除をすることでそれを回避できます。履修削除期間にポータルシステムより履修削除を行い、GPAが下がることがないようにしてください。

(6) 履修上限（CAP制）

CAP制とは、単位の過剰登録を防ぐため、1年間に履修登録できる単位の上限を設ける制度です。この制度は、大学の授業の時間数に加え、一定時間数の予習、復習をすることで十分な学修に必要な時間を確保するための措置です。

本学では、年間の履修登録上限を48単位までとしています。但し、留学生日本語I・II、留学生日本語能力演習、集中講義科目、通年科目は上限単位数に含みません。

年度終了時点の通算GPAが3.5以上の優秀学生は、必要手続きを経て上限50単位までの履修登録が可能となります。

単位を修得しないことを前提に聴講を希望する場合には、事前に授業担当教員に相談してください。

(7) 重複履修

下表のとおり、重複して履修することはできません。重複した科目は全て無効となり登録されないため、単位は修得できません。

重複履修の禁止	
① 同じ曜日・時限に2科目以上の授業科目を重複履修	履修登録・変更期間内に手続きをする必要があります。
② 同一科目を、他クラス・他の時限等で重複履修	履修登録・変更期間内に手続きをする必要があります。所属クラスでの履修が優先です。
③ 単位修得済みの授業科目を再履修	単位修得済みの授業科目は再履修できません。既に修得した単位の取り消しや変更もできません。

(8) 所属年次以外の授業科目の履修

所属年次以外の科目を履修できる場合は、次のとおりです。但し、履修は当該科目が配置されている年次の学生が優先されるため、定員制科目等は受講できないことがあります。

配当年次以外の科目の履修	
① 上級年次科目	所属年次よりも上級年次に配当されている科目を履修する場合は、 <u>メールで授業担当教員の承認を得て</u> 、教務係窓口に印刷したメールのやり取りを提出することで履修することができます。
② 下級年次科目	ポータルシステムから履修登録手続きをすることで履修することができます。

(9) 他クラスの授業科目の履修

基礎課程において許可なく他クラスの授業科目を履修登録してもクラス間違いとなり無効となります。

クラス指定のある授業科目の場合は、正しく履修登録し、指定されたクラスで受講してください。他クラスの授業に出席しても単位は修得できません。

(10) 集中講義等

授業科目により、集中講義（夏期講座、春期講座）として開講場合があります。

集中講義は、履修登録方法、開講時期、成績評価の時期等が異なりますので、注意してください。詳細は、授業担当教員からの説明があるか、事前に掲示を行いますので、確認してください。。

(11) 他学科授業科目

原則として、所属する学科の授業科目を履修します。他学科科目を履修する場合は、履修登録・変更期間内にメールで授業担当教員の了承を得て、教務係窓口にて印刷したメールのやり取りを提出することで履修が可能です。

他学科の授業科目を履修した場合、その学科での履修区分に関わらず、すべて選択科目として取扱います。

他学科科目の修得単位は、16 単位まで卒業要件として総単位数に算入することができます。但し、転学科によって転向した学科で単位認定された場合は、この限りではありません。

所属学科の学生が優先のため、定員制科目等は受講できないことがあります。

(12) 放送大学

放送大学の授業科目の受講を希望する学生は、教務係窓口にて放送大学特別聴講学生の申請を行うことができます。事前に掲示を行いますので、注意してください。

本学にて指定の期間内に申請した場合、放送大学への入学金が免除されます。

(13) 協定大学が提供する授業科目

協定大学が提供する授業科目を受講し単位を修得すると、本学の単位として認定します。授業科目や開講時期、募集の詳細は事前に掲示等を行いますので、希望する学生は申し込んでください。

入学金、授業料は免除されますが、教材費等が徴収される場合があります。

(14) カリキュラム年度と新規科目等

入学年度のカリキュラムが、卒業まで適用されます。但し、授業展開の都合や関係省庁の指導通達によって、カリキュラム変更や科目名称変更、新規科目開講、予定科目開講取止めなどが生じる場合もあります。学生各自は、折々のガイダンスなどで公表される授業科目新旧対応について十分注意して、履修に不備がないようにしてください。

特に、必修科目及び選択必修科目は、入学年度に指定された科目を履修することが卒業要件にも関係することになりますので、留意のうえ授業履修計画をたててください。

(15) ルーブリック

ルーブリックとは、「学生の学修到達状況を評価するための評価基準」のことです。ルーブリックに基づき、学生が何を学修するのかを示す「評価項目」と、学生が到達している具体的な段階を示す「評価基準」（目標到達点および基準到達点）の表形式における評価指標を用います。

授業で利用するルーブリック表は、Google Classroom を利用する方法や用紙を利用する方法などがあります。授業担当の先生から、授業開始時にルーブリックの提示がありますので、学生各自でルーブリック表の「評価基準」（目標到達点および基準到達点）をよく理解して、授業に取り組む必要があります。学生はルーブリックへの自己評価を行い教員に提出し、それに対し教員が評価し学生へ返却します。

ルーブリックは「卒業研究および制作」で実施します。

6. インターンシップ

本学では、ものづくりに関連する現業での実務体験を行う目的で、2年次に基礎インターンシップ（40日）、4年次に専門インターンシップ（20日・40日）を開講しています。

(1) インターンシップの種類

情報メカトロニクス学科

2年次に選択科目である基礎インターンシップを履修します。

4年次では選択科目として専門インターンシップが配当されています。

学年	区分	科目名
2年次	基礎インターンシップ (選択/40日)	基礎インターンシップ
4年次	専門インターンシップ (選択/20日または40日)	専門インターンシップⅠ（20日）
		専門インターンシップⅡ（40日）

建設学科

2年次に必修科目である基礎インターンシップとして、一般基礎インターンシップ、建築士基礎インターンシップあるいは測量基礎インターンシップのいずれかから選択し、履修します。

4年次では選択科目である専門インターンシップとして、一般専門インターンシップ、建築士専門インターンシップ及び測量専門インターンシップが配当されています。

学年	区分	科目名
2年次	基礎インターンシップ (必修/40日)	一般基礎インターンシップ
		建築士基礎インターンシップ
		測量基礎インターンシップ
4年次	専門インターンシップ (選択/40日)	一般専門インターンシップ
		建築士専門インターンシップ
		測量専門インターンシップ

(2) インターンシップの履修条件

インターンシップを履修するには、基本的な社会常識を身に着けていること、真摯な態度で授業に取り組んでいることが前提であり、履修するためには以下の①～③の条件を満たす必要があります。

- ① 1年次に実施されるインターンシップ説明会に出席すること
- ② 1年次3Q終了時で20単位以上修得または1年次4Q終了時で25単位以上修得していること
- ③ 学生のための「学生教育研究災害傷害保険」および「学研災付帯学生生活総合保険」に加入していること

また、各学科の履修条件は次のとおりです。

情報メカトロニクス学科

① 基礎インターンシップ（2年次2Q）

担当教員と面談し、承認を得ることが必要です（面談結果によっては研修先を変更する場合があります）。また、安全・衛生および技能技術に関する基本的な素養を身につけておくことが求められるため、「安全衛生」を履修していることが望ましいです。

② 専門インターンシップ（4年次1Q～3Qの間）

将来の進路、「卒業研究および制作」の状況等に基づいて所属研究室の指導教員と相談の上、履修します。したがって、インターンシップ先は原則として指導教員の指示により決定されます。なお、「基礎インターンシップ」を修得していることが専門インターンシップの履修条件となります。

③ インターンシップの成果発表

インターンシップに関わる各種報告書とともに、履修成果の口頭発表とポスター発表を義務付けています。

建設学科

① 基礎インターンシップ（2年次2Q）

建設現場、事務所、工場等での実習環境において、安全・衛生および技能技術に関する基本的な素養を身につけておくことが求められるため、「安全衛生」を履修していることが望ましいです。

② 専門インターンシップ（4年次1Q～3Qの間）

履修に関しては所属研究室の指導教員の指導を参考とし、就職活動や「卒業研究および制作」の計画を踏まえ、選択の有無を定めてください。なお、これまでの授業で建設に関連した知識を一通り修得し、且つ、「基礎インターンシップ」を修得していることが専門インターンシップ履修の条件となります。

7. 主専攻コース選択と研究室配属（卒業研究および制作）

主専攻とは、全学生を対象に特定分野の専門知識と技術・技能の修得を目的に、応用課程に置かれた4コースから選択した一つのコースを指します。

「卒業研究および制作」は、授業科目等で学修した知識や技能技術をもとに、各自が自立したテクノロジストになるために、教員の個別指導を受けながら研究や設計・制作を実施するものです。

(1) 主専攻コース配属

コース配属は主専攻を決定するもので履修登録と関連します。研究室配属は卒業研究テーマを決定するもので履修登録とは関連していません。選択したコースに配置される授業科目を「卒業までに13単位以上」修得することが必須要件となります。主専攻コースの配属は2年3Qからですが、1Qおよび基礎インターンシップ終了時に希望調査を行い、学科内選考を経て夏季休業中に配属先コースを決定します。

(2) 研究室配属

研究室選択は主専攻コースの研究室（卒業研究テーマ）を優先することが望ましいですが、他研究室を選択することも可能です。3年次1Q～2Qに希望調査を行い、学科内選考を経て配属先研究室を決定します。

各学科の配属条件は下記の通りです。

情報メカトロニクス学科

- ① 2年次4Q終了時点で55単位以上修得していること。
- ② ①を満たしていない場合、90単位修得時点で順次配属となります。

建設学科

- ① 2年次4Q終了時点で60単位以上修得していること。
 - ② ①を満たしていない場合、3年次4Q終了時点で90単位以上修得していること。
 - ③ ②を満たしていない場合、翌年度4Q終了時点で60単位以上修得していること。
- 以降、同様の手順で配属となります。

(3) 副専攻

副専攻とは、主専攻とは異なるコースから1つを選び、幅広い専門知識や技術・技能の修得を目指す制度です。

4年次2Q終了時点で条件を満たした場合、学生の判断で副専攻の認定申請を行い、認定された学生は副専攻の修了が認められます。

(4) 主専攻・副専攻の証明書等への表記について

主専攻は、卒業証明書・成績証明書に記載されます。副専攻は、個別認定された場合に副専攻修了書を授与します。

(5) 卒業研究および制作（必修）

① 発表条件

4 年次 2Q 終了時で 100 単位以上修得している場合、4Q で卒業研究および制作の発表が可能です。4Q 以外のクォータ卒業の場合、発表の 2 クォータ前の時点で 100 単位以上修得している必要があります。但し、早期卒業が見込まれる場合にあつては、その限りではありません。

② 実施方法等

「卒業研究および制作」の受講にあたって、研究等の進め方や提出物などの詳細は、各研究室の指導教員の指導に従ってください。

③ 成績判定

各学科の定める基準に基づいて、合否が判定されます。

8. 試験

(1) 試験の受験資格

試験を受験するためには、受験する授業科目を履修登録していることが必要です。

※ 授業科目によっては、授業への出席状況により受験資格を得られない場合があります。授業への出席と成績評価との関連性については、後述の「9. 成績評価及び単位の認定」を参照してください。

(2) 試験の方法

試験の方法は、授業科目により異なります。詳細は、授業担当教員からの説明や web シラバス等を参照してください。

試験方法の例は、次のとおりです。

試験方法の例	
例 1	筆記試験
例 2	実技試験、実験成果
例 3	授業態度、レポート、課題・作品、報告書等
例 4	研修態度、日報、研修報告、研修成果等
例 5	論文、作品、計画、実験報告、発表等

(3) 試験の実施時間等

試験の実施については授業の中で随時行う場合・開講クォータの最終授業時間内に行う場合・開講クォータの授業とは別の日程（補講・補習週を含む）に試験を行う場合があります。事前に授業担当教員から指示や掲示をします。

試験の実施時間や教室等は、通常の時間割とは異なることがありますので注意してください。

(4) 入退室・遅刻

試験室への入退室に関する注意事項は、次のとおりです。

試験室への入退室に関する注意事項	
① 試験開始後 30 分以上経過	入室できません。 (受験できません。)
② 試験開始後 40 分まで	退室できません。 (40 分以降は、退室可能。)
③ 急病など	試験監督の許可を得た後に指示に従い退室することができます。

※ 途中退室した場合は、再入室できません。

※ 途中退出する場合は、退室前に試験問題及び答案用紙を提出しなければなりません。

(5) 受験上の心得

受験者は、試験に際して次の事項を必ず守ってください。守れない場合は、受験を許可しません。また、不正行為とみなすことがあります。

受験上の心得
①学生証を机の上に置き、提示すること。
②答案用紙は、解答の有無にかかわらず、提出すること。
③筆記用具及び許可された物品以外は、机の上に置かないこと。
④試験時間中に物品等の貸し借りをしないこと。
⑤不正行為もしくは不正行為を疑われることをしないこと。
⑥試験監督者の指示に従うこと。

※ 上記のほか、次の事項を守ってください。

- ・携帯電話等は電源を切り、鞆の中などにしまってください。
- ・鞆は机の下に置くなど、指示された場所に置いてください。

※ 学生証は、教務係窓口にて手続きをすれば再発行できますが、即日発行はできません。再発行には3週間程度かかりますので、再発行の必要がある場合は、試験受験に間に合うよう速やかに手続きを行ってください。

(6) 不正行為の取扱い

試験において不正行為を行った場合は、懲戒処分となります。対象となる試験は、筆記試験に限らず、実技試験、レポート、課題・作品、報告書、論文など、成績評価に関わる全てが含まれます。

懲戒は、不正行為の軽重により、訓告、停学、退学の処分があります。処分内容は、次のとおりです。

不正行為に対する懲戒処分	
訓告	・不正行為を行った科目の成績が無効となります。
停学	・不正行為を行った科目が開講されたクォータで履修登録した全ての科目の成績が無効となります。 ・停学中は、授業を履修することはできません。
退学	・不正行為を行った科目が開講されたクォータで履修登録した全ての科目の成績が無効となります。 ・退学（再入学はできません）

※ 停学期間は、修業年限には含みませんが、在学年限には含めます。卒業には、停学期間を除いて4年以上の在学が必要となるため、通常の学生と同じ4年間で卒業することはできません。

9. 成績評価及び単位の認定

本学では一つの科目が1クォータで7回の授業構成となっているため、1回の授業の重みは大きく、授業はすべて出席することが当たり前であり、何回まで休んでよいというものではありません。病気や忌引きであっても、欠席すれば学修に支障をきたすこととなりますので、欠席した授業の内容の把握や質問など、自ら学ぶことが必要となります。

なお、授業出席は成績評価を受けるための前提条件であり、授業に全て出席したからといって、合格点となる基準到達点以上の評点に満たなければ単位を修得することはできません。試験方法は授業科目によって異なりますので留意してください。

(1) 成績評価の区分

成績評価は、到達目標に示される「目標到達点」「基準到達点」により行われ、目標到達点、基準到達点と成績評価の関係は次のとおりです。評価が「C：合格」以上の場合に所定の単位を修得できます。

目標到達点：授業で扱うすべての内容(授業のねらい)を示す目標

基準到達点：授業を履修する学生が最低限、身につける内容を示す目標

評価	評点	内容	区分
S	100～90 点	目標到達点を越えている。	合格
A	89～80 点	目標到達点を達成している。	
B	79～70 点	目標到達点に挑戦している段階である。	
C	69～60 点	基準到達点を達成している。	
N	なし※	他大学や他機関等で修得した成績を認定したもの。	
E	59 点以下	基準到達点を達成できていない。	不合格

※ 科目認定には、所定の手続きが必要です。教務係窓口にお問い合わせください。

※ 各科目の成績評価は、シラバスに掲載していますので必ず確認をしてください。

(2) 成績の取扱い

集中講義科目、通年科目、インターンシップ、卒業研究および制作を除き、通常の授業科目はクォータごとに成績を評価します。

成績評価の結果は、クォータごとに通知しますので、各自成績を確認してください。

(3) 成績発表

各自のポータルシステムから成績を閲覧できます。ポータルシステムへの公開日は、掲示等でお知らせしますので確認してください。

(4) 成績質問申請

成績評価の内容について質疑のある場合は、指定された期間（成績質問申請期間）内に、所定の用紙（成績に関する質問申請書）に必要事項を記入し、教務係窓口へ提出してください。

成績質問申請期間に質問申請できる対象は、当該クォータの成績に限られます。過去の成績に関する質問は受け付けません。成績質問申請期間を過ぎた場合は、成績に関する質問は受け付けません。

※ 質問申請する際には、次の事項を念頭に入れてください。

- ① 授業への出席は、成績の評価を受けるための前提条件であり、授業に全て出席したからといって、合格点以上の評点に満たなければ単位を修得することはできません。
- ② 課題、レポートなどの提出物は、提出すればよい訳ではなく、期限内に提出されたものに限り成績評価の対象とし、その内容を評価するものです。
- ③ 質問申請は、成績評価結果への疑問を解決することが趣旨です。質問申請したからといって、成績が変更になるとは限りません。

(5) GPA制度について

GPA(Grade Point Average)とは成績評価(S、A、B、C、E)にそれぞれGP(Grade Point)を定め、それに各単位数を掛けた値の合計を履修登録単位合計で割った平均値であり、総合的な成績指標です。したがって、不合格科目が多いとGPAの値が低くなります。

GPAは、席次の決定のほか学内での選考(早期卒業、奨学生、コース配属、就職の推薦等)に使用され、成績証明書には通算GPAが表示されます。

各成績評価に対するGP(Grade Point)は次のとおりです。但し、単位認定した科目「N」はGPAの算出には含まれません。

○成績評価GP

成績評価		G P
合格	S	4
	A	3
	B	2
	C	1
	N	—
不合格	E	0

(6) GPAの算出方法

各年度のGPA

$$= \frac{\text{「当該年度（当該クォータまで）に履修した科目のGP} \times \text{単位」の合計}}{\text{当該年度（当該クォータまで）に履修登録した単位数の合計}}$$

通算GPA

$$= \frac{\text{「今まで履修した科目のGP} \times \text{単位」の合計}}{\text{今までに履修登録した単位数の合計}}$$

※ 成績通知書には、「各年度のGPA」、「通算GPA」の2種類が表示されます。

※ 成績証明書には、通算GPAが表示されます。

(7) 成績の席次

成績に基づき、各学生の席次を確定します。席次を知りたい場合は、教務係窓口で学生証を提示してください。なお、申請は、学生本人に限ります。

※ 席次の算出方法は、通算GPAにより各学科各学年の順位付けを行います。

(8) 学修指導

各クォータのGPAや修得単位数が一定基準を満たしていない場合は、担任教員による面談を行います。また、年間GPAが0.5未満の場合は学修指導を行います。指導後も学修への取り組みが改善されない場合は、退学勧告を受ける可能性もあります。したがって、履修登録した科目で受講しない場合は履修登録・変更期間や履修修正期間を活用して、削除を行ってください。

(9) 追試

不合格となった学生を対象に翌学期以降に受講学生の単位修得を支援するため、補充授業を実施し、単位認定のための追試験を実施することがあります。

(10) 他大学等で履修した単位の認定

他大学等において修得した単位がある場合、その科目と本学の授業科目を対応させるなどして、単位の認定を行うことがあります。

単位認定を希望する学生は、所定の用紙（既修得単位認定願または技能試験合格者単位認定願）に必要書類を添付して教務係窓口に提出してください。

単位認定の主な対象は、次のとおりです。

主な単位認定の対象	
①	他大学（外国の大学を含む）、短大での修得単位※
②	高等専門学校、専修学校（専門課程）等での修得単位※
③	文部科学省認定の技能資格の合格（英検等）
④	③に準じる技能資格（検定試験）の合格
⑤	本学の科目等履修生として修得した単位 ※
⑥	本学の高大連携制度に基づき入学前に本学で履修した単位 ※

※ 原則として入学前に修得しているものが認定の対象となります。

※ 英語科目の単位認定基準は次のとおりです。

授業科目	単位	英検	TOEIC	TOEFL iBT	IEFLTS	CEFR(レベル)
英語Ⅰ(教養共通)	2	2級	L&R: 550- S&W: 240-	42-71	4.0-5.0	B1
英語Ⅱ(教養共通)	2					
英語Ⅲ(教養共通)	2	準1級	L&R: 785- S&W: 310-	72-94	5.5-6.5	B2

授業科目	単位	英検	TOEIC	TOEFL iBT	IEFLTS	CEFR(レベル)
ビジネスコミュニケーションⅠ	1	2級	L&R: 550- S&W: 240-	42-71	4.0-5.0	B1
ビジネスコミュニケーションⅡ	1					

(11) 放送大学で履修した単位の認定

放送大学の授業科目の履修を希望する学生は、所定の用紙（特別聴講学生出願票等）にて教務係窓口で申請してください（期間外の受付は行っておりませんので、必ず掲示を確認してください）。

本学より特別聴講学生として申請し、放送大学への入学が認められた場合は、放送大学への入学金が免除されます。

また、放送大学の特別聴講学生として修得した単位（卒業研究を除く）は、他大学等で履修した単位とあわせて 12 単位を限度として、本学で修得した単位と同等のものとして認定され、卒業に必要な単位数に含めることができます。但し、これらの放送大学等の科目は、本学の授業科目に代えることはできません。

10. 卒業要件

卒業のためには、編入学生等を除き、通常4年以上在学して4年間の教育課程（修業年限）を修了し、かつ、必要な単位を修得しなければなりません。

卒業が認められると、学士（技能工芸学）の学位が授与されます。

(1) 卒業要件

各学科が指定する必修科目（「卒業研究および制作」を含む）のすべての単位、及び選択必修科目の中から指定する単位数を含め、合計124単位以上の修得が必要です。

情報メカトロニクス学科卒業要件

区 分		単位数
教養科目	必修科目	4.5 単位
	選択必修科目	8.5 単位以上
専門共通科目	必修科目	18 単位
専門科目	主専攻科目	13 単位以上
卒業研究および制作（必修）		12 単位
基礎インターンシップ含む その他選択科目		68 単位以上
合 計		124 単位以上

建設学科卒業要件

区 分		単位数
教養科目	必修科目	4.5 単位
	選択必修科目	8.5 単位以上
基礎インターンシップ（必修）		8 単位
専門共通科目	必修科目	18 単位
専門科目	必修科目	1.5 単位
	主専攻科目	13 単位以上
卒業研究および制作（必修）		12 単位
その他選択科目		58.5 単位以上
合 計		124 単位以上

(2) 卒業見込証明書

卒業見込証明書は、4年次の4月末日頃から発行します。発行に必要な単位数は、100単位以上です。発行開始日の詳細等については、掲示を行いますので確認してください。

※ 授業料等未納者については、証明書の発行はできません。

(3) 卒業の時期

4年次終了時に卒業要件を満たすことができず留年した学生は、4年間の修業年限経過以降、「卒業研究および制作」を含むすべての卒業要件を満了したクォータの末日付けでの卒業となります。

(4) 早期卒業

通常、卒業には4年以上の在学が必要ですが、次の事項を全て満たした学生は、3年次4クォータ終了時以降に早期卒業できる可能性があります。

- ① 学則に定める教育課程を履修し、卒業に必要な単位数以上を修得していること。
- ② 本学の3年以上在学していること。
- ③ 在学期間の通算GPAが3.5以上であること。

※ 早期卒業に伴う申請要件などの詳細は、教務係窓口で確認してください。

B. カリキュラム

(情報メカトロニクス学科 2026 年度入学者適用)

I. カリキュラム (教育課程)

II. 授業科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム（教育課程）

I-1. ディプロマ・ポリシー		33
I-2. カリキュラム・ポリシー		34
I-3. 応用課程のコース		35

I-1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ① 製造関連分野（AI・情報システム、ロボットシステム、機械デザイン、生産システム）に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。
- ③ 多様化する製造関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

I-2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の内容・方法の方針）

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- ① 入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制（quarter 制度）の下で1 年1 学期から 2 年2 学期までを「基礎課程」、2 年3 学期から 3 年4 学期までを「応用課程」、そして4 年1 学期から 4 年4 学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ② 基礎課程では、製造関連分野（AI・情報システム、ロボットシステム、機械デザイン、生産システム）に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。
- ③ 応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④ 専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、情報メカトロニクス学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1 年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤ 上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要不可欠なる教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、人文・社会科学さらに自然科学を学び、専門研究課程では本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解し、卒業後を見据え社会に巣立つテクノロジストとしての社会性・倫理性を身に付ける。

I-3. 応用課程のコース

応用課程（2 年次 3 クォータ～3 年次 4 クォータ）では、各専門分野の技能技術および専門知識の修得を目的とした 4 つのコースを設置しています。各コースの履修方法等については、事前にガイダンスまたは掲示を行います。

応用課程に置かれるコースは、AI・情報システムコース（AI）、ロボットシステムコース（RS）、機械デザインコース（MD）、生産システムコース（PS）の 4 コースです。

配当される各授業科目の内容等については、WEB シラバスを参照してください。
各コースのエデュケーショナル・ポリシーは以下の通りです。

1) AI・情報システムコース（AI）

① 目標とする学修成果

現代社会は、AI、IoT、データサイエンスの発展により、種々の現象を検知・解析・推測し、物ごとを効率的に動かす技術が進歩しています。これに伴い、自動運転や介護補助・遠隔医療など、人の生活をより一層便利にするシステムや工業・農業・建設機械など、広範囲でシステムの自動化が進むでしょう。このため、当コースでは各種機械の最新の自動化技術を理解するため、AI やデータサイエンス、IoT を相乗した ICT などを実践的な学修方法で修得し、AI・情報システムのスペシャリストとして、AI・IoT・データサイエンスを駆使した、これからの多様なデジタル社会を先導できるテクノロジストを育成します。

② 授業科目編成

基礎課程では ICT 基礎・応用により、情報をデジタルデータとして扱う方法とソフトウェア開発技術の基礎的知識を身に付けます。また、機械や電気のものづくり技術と、すぐれたデザインを創出する技法についても修得します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、人の身体・感覚・心などの仕組みを学ぶとともに、センサやマイクロコンピュータ・通信など、ヒューマンインタフェースの要素技術を修得します。さらに、より高度なインタフェース構築のために、CG や AI 技術も学んで理解を深めます。

このように、総合的に AI・情報システムが学べる授業科目編成となります。

2) ロボットシステムコース（RS）

① 目標とする学修成果

ロボット開発はグローバルな視点から見ても、ハードウェア関連技術とソフトウェア関連技術の両輪となる専門的知識を備え、常に点検評価と創意工夫によってさらなる向上意欲を備えた現場力重視の技術者が求められています。このため、当コースではハードウェア関連技術となる 3D 設計・自動制御技術・ロボット技術・センシング技術・オペレーション技術などに加え、ソフトウェア関連技術としてロボット言語・組込みシステム、C/Python プログラミングなどを実践的な学修方法で修得し、ロボットシステム分野のスペシャリストとして、未来の豊かな人間社会を支える、ロボットや自動化システムの設計・開発などを担うことができるテクノロジストを育成します。

② 授業科目編成

基礎課程では ICT 応用および演習を通じて、プログラム作成の基礎を修得します。さらにメカトロニクス技術の要素技術修得をめざし、機械システム・センサ技術・メカトロニクスなどを学び、ロボットシステムの基礎を理解します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、

ロボット開発者または自動化システム開発者をめざして、自動制御、組込みシステム、ロボット技術、知能化技術なども学修し、各種の技術を統合できる開発力を身に付けます。

このように、総合的にロボットシステムが学べる授業科目編成となります。

3) 機械デザインコース (MD)

① 目標とする学修成果

人間の生活をより豊かなものとするため、これからのものづくりには「もの」が実現できるだけでなく、それを使う人や環境との調和の視点を大切にして様々な機械を設計・製作することが求められています。このため、当コースでは機械要素・機械力学・材料工学・加工プロセスなど機械の設計・製作に必要な知識や技術を実践的な学修方法で修得し、機械デザイン分野のスペシャリストとして、多様な機械使用の環境のなかで現代社会や人々が求めるニーズを逸早く理解し、それを様々なアイデアによって形にできるテクノロジストを育成します。

② 授業科目編成

基礎課程では興味・得意分野を見つけながら、機械製図、機械設計製図などを通じて機械設計の基礎を学びます。さらに3次元CAD、機械設計スキルを修得します。基礎インターンシップ後の応用課程からは、高度な機械製作のための専門的課題に取り組み、また、CADやCAMを用いた製図技術も学び、洗練されたデザイン力を身に付けます。

このように、総合的に機械デザインが学べる授業科目編成となります。

4) 生産システムコース (PS)

① 目標とする学修成果

安全性と高効率を備えた生産技術は重要であり、生産工程設計・製造ライン設計・品質管理・生産管理などの手法を理解しておかなければなりません。また、効率的なものづくりとそのための環境整備と改善手法は企業にとって重要であり、その能力が必要となります。また実際の製造現場で使用される最新鋭の機器や測定機器の取り扱いを理解し、活用できなくてはなりません。当コースでは機械加工技術と生産工程を提案する技術と共に、現場管理・マネジメント力を修得し、生産システムのスペシャリストとして、生産現場の最前線でリーダーを担えるテクノロジストを育成します。

② 授業科目編成

基礎課程では基本的な機械加工技術をベースに、生産工程設計・製造ライン設計・品質管理・生産管理などの基礎を学びます。また、様々な基礎的学習を通して、機械工作・機械加工および測定スキルも身に付け、伝統的な技法についても学びます。基礎インターンシップ後の応用課程からは、現代のものづくりで使用される最新鋭の機器を用いて、第一線の現場で即戦力となりうる技術を修得します。さらには実践的なトヨタ生産方式をはじめとするものづくりのマネジメントについても、理解を深めます。

このように、総合的に生産システムが学べる授業科目編成となります。

Ⅱ．授業科目

Ⅱ-1. 授業科目配当表（2026 年度入学生）	38
Ⅱ-2. 授業科目一覧	40
Ⅱ-3. カリキュラムツリー	44
Ⅱ-4. カリキュラムマップ	46
Ⅱ-5. ナンバリング	48

II-1. 授業科目配当表

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

[illegible]

※開講予定は別途案内する

Ⅱ-2. 授業科目一覧

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単 位 数		
				必修	選択必修	選択
教養科目	◎ 安全衛生	1	1	1		
	◎ ICT基礎および実習Ⅰ	1	2	1.5		
	留学生日本語Ⅰ	1	2		2	
	◎ データリテラシー・AI基礎	1	1	1		
	社会人基礎力育成講座Ⅰ	1	1		1	
	ものづくり・ひとづくり総合講義A	1	2		2	
	創作実習A(夏期)	1	2		1	
	創作実習B(夏期)	1	2		1	
	英語Ⅰ	1	2		2	
	スポーツ・コミュニケーション	1	1		1	
	ICT基礎および実習Ⅱ	1	2		1.5	
	英語Ⅱ	1	2		2	
	デザイン思考	1	1		1	
	留学生日本語能力演習	1	1		1	
	ものづくり基礎探究(高大連携)	1	1			1
	英語Ⅲ	2	2		2	
	◎ 社会人基礎力育成講座Ⅱ	2	1	1		
	救命衛生法	2	1		1	
	留学生日本語Ⅱ	2	1		1	
	SDGs-A	2	1		1	
	SDGs-B	2	1		1	
	ものづくり・ひとづくり総合講義B	3	1		1	
	社会人基礎力育成講座Ⅲ	3	1		1	
	言語と文化	3	1		1	
	日本文化論	3	1		1	
	文明と社会	3	1		1	
	梅原猛で学ぶ学問と世界	4	1		1	
	社会人基礎力育成講座Ⅳ	4	1		1	
	Druckerで学ぶマネジメント	4	1		1	

◎ 必修科目

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単 位 数	
				必修	選択
専門共通科目	◎ フレッシュマンゼミ	1	4	2	
	◎ 工学基礎および実験	1	2	1.5	
	◎ 測定基礎実習	1	1	0.5	
	基礎数学Ⅰ	1	1		1
	機械スケッチ演習	1	1		1
	ビジネスコミュニケーションⅠ	1	1		1
	基礎数学Ⅱ	1	1		1
	基礎物理Ⅰ	1	1		1
	基礎物理実験	1	2		1
	ものづくり数理工学	1	1		1
	ビジネスコミュニケーションⅡ	1	1		1
	基礎数学Ⅲ	1	1		1
	基礎物理Ⅱ	1	1		1
	基礎化学	1	1		1
	機械工学概論	1	1		1
	◎ ものづくり技術概論	1	1	1	
	設計技法	1	1		1
	ライティング	1	1		1
	基礎数学Ⅳ	1	1		1
	基礎物理Ⅲ	1	1		1
	基礎材料学	1	1		1
	電気工学概論	1	1		1
	プロダクトデザインおよび実習	1	2		1.5
	工業数学	2	1		1
	基礎物理Ⅳ	2	1		1
	機械システムとメカニズム	2	1		1
	ものづくり実務概論	2	1		1
	工業材料A	2	1		1
	◎ プロジェクト実習	2	2	2	
	生産管理	2	1		1
	材料力学Ⅱ	2	1		1
	工業材料B	2	1		1
	基礎数値解析	2	1		1
	品質管理	2	1		1
	ICT応用および実習	2	2		1.5
	材料強度	2	1		1
	熱・流体力学の基礎	2	1		1
	統計的データ解析	2	1		1
	音響工学	3	1		1
	産業構造論	3	1		1
	ユーザ工学	3	1		1
	熱力学	3	1		1
	エネルギー工学	3	1		1
	生体工学	3	1		1
	マイクロデバイス	3	1		1
	信頼性工学	3	1		1
	◎ 創造プロジェクト	3	6	3	
	流体力学	3	1		1
	人間工学	3	1		1
	生命科学概論	3	1		1
	実践に役立つ知財活用戦略	3	1		1
	製品開発計画	3	1		1
	伝熱工学	3	1		1
	感性工学	3	1		1
	◎ Lゼミ	4	8	8	

授業科目名		配当年次	時間数 (コマ数)	単 位 数		コース			
				必修	選択	AI	RS	MD	PS
専門科目	データサイエンスおよび実習	1	2		1.5	△	△		
	手仕上げ加工および実習	1	2		1.5			△	△
	機械加工基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	NCプログラム基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	溶接基礎・板金基礎および実習	1	2		1.5			△	△
	ロボット機構基礎および実習	1	2		1.5		△		
	基礎機械製図および実習	1	2		1.5			△	△
	Python基礎および実習	1	2		1.5	△	△		
	デジタルファブリケーションおよび実習	1	2		1.5		△	△	
	2次元CADおよび実習 I	1	2		1.5			△	△
	JavaScript基礎および実習	1	2		1.5	△	△		
	数値解析基礎および演習	1	2		2	△	△		
	3次元CADおよび実習 I	1	2		1.5			△	△
	データマイニング基礎および実習	2	2		1.5	△	△		
	基礎電気工学および実験	2	2		1.5	△	△	△	
	材料力学 I および実験	2	2		1.5			△	△
	ネットワークの仕組	2	1		1	○			
	Webデザインおよび実習	2	2		1.5	○			
	デジタル回路および実習	2	2		1.5	○	○		
	電気電子技術	2	1		1		○		
	実践機械製図および製作 I	2	2		1.5			○	
	機械力学および実験	2	2		1.5			○	
	鋳造基礎実習	2	2		1			○	○
	3次元CAD実習 II	2	2		1				○
	半導体	2	1		1	○			
	CGプログラミングおよび実習	2	2		1.5	○			
	アナログ回路および実習	2	2		1.5		○		
	電気電子回路および実験	2	2		1.5		○	○	
	制御技術および実験	2	2		1.5		○	○	
	2次元CAD実習 II	2	2		1			○	
	実践機械製図および製作 II	2	2		1.5			○	
	材料評価および実験	2	2		1.5				○
	変形加工および実習	2	2		1.5				○
	自動車生産技術	2	1		1				○
	基礎インターンシップ	2	40日		8	○	○	○	○

授業科目名		配当年度	時間数 (コマ数)	単位数		コース			
				必修	選択	AI	RS	MD	PS
専門科目	デジタルメディアデザインおよび実習	3	2		1.5	○			
	C言語および実習	3	2		1.5	○	○		
	知能化技術	3	1		1	○			
	ロボット技術および実験 I	3	2		1.5		○		
	センサ技術および実験	3	2		1.5	○	○	○	
	アクチュエータおよび実験	3	2		1.5		○		
	強度設計および演習	3	2		2			○	
	精密計測および実験	3	2		1.5				○
	機械工作法A	3	1		1				○
	機械工作法B	3	1		1				○
	機械工作実験A	3	2		1				○
	機械工作実験B	3	2		1				○
	Javaプログラミングおよび演習	3	2		2	○	○		
	メカトロニクスおよび実験	3	2		1.5	○	○		
	IoT技術および実験	3	2		1.5	○	○		
	ロボット技術および実験 II	3	2		1.5		○		
	自動制御および実験	3	2		1.5		○		
	自動化技術および実験	3	2		1.5			○	
	機械要素応用	3	1		1			○	
	CAD設計製図および実習	3	2		1.5			○	
	CAE基礎および演習	3	2		2			○	
	NC機械加工実習	3	2		1				○
	鋳造技術および実習	3	2		1.5				○
	樹脂成形加工および実習	3	2		1.5				○
	組込みシステム基礎および実習	3	2		1.5	○	○		
	インタフェース技術および実習	3	2		1.5	○			
	ロボット技術および実験 III	3	2		1.5		○		
	CAD/CAMおよび実習	3	2		1.5			○	○
	生産機械	3	1		1			○	
	研削加工および実習	3	2		1.5				○
	鍛造加工および実習	3	2		1.5				○
	トヨタ生産方式実践演習	3	1		1				○
	組込みシステム応用および実習	3	2		1.5	○	○		
	IoT応用技術および実習	3	2		1.5	○			
	画像処理および実習	3	2		1.5	○	○		
	AI技術および演習	3	2		2	○			
	ロボット技術および実験 IV	3	2		1.5		○		
	工業デザインプロセスおよび実習	3	2		1.5			○	
	CAE応用および演習	3	2		2			○	
	3次元CADおよびDTPD演習	3	2		2			○	
	生産システム学および演習	3	2		2				○
	先進NC機械加工および実習	4	2		1.5				○
	専門インターンシップ I ※	4	20日		4	○	○	○	○
	専門インターンシップ II ※	4	40日		8	○	○	○	○
	◎ 卒業研究および制作	4	4Q分	12		○	○	○	○

※ 専門インターンシップは I, II のいずれかを履修

II-3. カリキュラムツリー

この図は、情報メカトロニクス学科で開講される授業科目間の関連を学習内容の連続性に基づいて示しています。図から、上級年次の科目を選択するうえで履修しておくことが望ましい科目が分かりますので、履修の計画を立てる際の参考にしてください。なお、専門コースと科目の関係については授業科目一覧または授業科目配当表で確認してください。

分野	1 学年第 1 Q	1 学年第 2 Q	1 学年第 3 Q	1 学年第 4 Q	2 学年第 1 Q	2 学年第 2 Q	2 学年第 3 Q	2 学年第 4 Q	3 学年第 1 Q	3 学年第 2 Q	3 学年第 3 Q	3 学年第 4 Q	4 学年第 1 Q	4 学年第 2 Q	4 学年第 3 Q	4 学年第 4 Q			
ゼミ a	フレッシュマンゼミ(2)				プロジェクト実習(2)				創造プロジェクト(3)				卒業研究および制作(12)				必修科目		
					基礎インターン シップ(8)								しぜみ(8)						
													専門インターンシップⅠ (4) 専門インターンシップⅡ (8)						
英語 b	ビジネスコミュニ ケーションⅠ (1)	ビジネスコミュニ ケーションⅡ (1)	ライティング(1)														専門共通科目		
感性工学 c									音響工学(1)		人間工学(1)	感性工学(1)							
									生体工学(1)		生命科学概論(1)								
よびデザイン 情報 e							Webデザインおよび実習 (1.5)	ICT応用および実習(1.5) CGプログラミング および実習(1.5)		デジタルメディアデザインおよ び実習(1.5) IoT技術および実習(1.5) デジタルメディアデザインおよ び実習(1.5) IoT技術および実習(1.5)		IoT応用技術および実習 (1.5) 画像処理および 実習(1.5) 画像処理および 実習(1.5)				AI・情報システムコース			
	データサイエンス および実習(1.5)		Python基礎 および実習(1.5)	JavaScript基礎 および実習(1.5)	データマイニング基礎 および実習(1.5)		ネットワークの仕組(1)		C言語および実習(1.5) C言語および実習(1.5)	Javaプログラミング および演習(2) Javaプログラミング および演習(2)									
クス f								半導体(1) デジタル回路および 実習(1.5) 電気電子技術(1) 電気電子回路 および実験(1.5) 電気電子回路 および実験(1.5)		センサ技術および 実験(1.5) 知能化技術(1) アクチュエータおよび 実験(1.5) センサ技術および 実験(1.5) センサ技術および 実験(1.5)	マイクロニクスおよび 実験(1.5) マイクロニクスおよび 実験(1.5) 自動制御および実験(1.5) 自動化技術および実験 (1.5)	組み込みシステム基礎 および実習(1.5) インタフェース技術 および実習(1.5) 組み込みシステム基礎 および実習(1.5)	組み込みシステム応用 および実習(1.5) AI技術および演習(2) 組み込みシステム応用 および実習(1.5)						
ロボット i		ロボット機構基礎 および実習(1.5)																	ロボットシステムコース
データベース j	基礎数学Ⅰ (1)	基礎数学Ⅱ (1) ものづくり数理工学(1)	基礎数学Ⅲ (1)	基礎数学Ⅳ(1) 数値解析基礎 および演習(2)			基礎数値解析(1) 工業数学(1)	統計的データ解析(1)											
物理 k 熱・流体力学 m	工学基礎および実験(1.5)	基礎物理Ⅰ (1) 基礎物理実験(1)	基礎物理Ⅱ (1)	基礎物理Ⅲ (1)	基礎物理Ⅳ(1)		機械力学および 実験(1.5)	熱・流体力学の基礎(1)			熱力学(1)	流体力学(1)	伝熱工学(1)						
材料力学 n					材料力学Ⅰおよび 実験(1.5)		材料力学Ⅱ (1)	材料強度(1)	強度設計および演習(2)									機械デザインコース	
CAD p	機械スケッチ演習(1)	基礎機械製図 および実習(1.5)	設計技法(1) 2次元CADおよび実習Ⅰ (1.5) デジタルアプリケーション および実習(1.5)	プロダクトデザインおよび実習 (1.5) 3次元CADおよび実習Ⅰ (1.5)	機械システムと メカニズム(1)		実践機械製図 および製作Ⅰ (1.5) 3次元CAD実習Ⅱ (1)	実践機械製図 および製作Ⅱ (1.5) 2次元CAD実習Ⅱ (1)	ユーザ工学(1)	CAE基礎および 演習(2) 機械要素応用(1) CAD設計製図 および実習(1.5) エネルギー工学(1) マイクロデバイス(1)	CAD/CAMおよび 実習(1.5) CAD/CAMおよび 実習(1.5)	CAE応用および 演習(2) 3次元CADおよびDTPD演 習(2) 工業デザインプロセスおよび 実習(1.5)							
材料 q				基礎材料科学(1)	工業材料A(1)		工業材料B(1)	材料評価および実験(1.5)											
生産システム r			ものづくり技術概論(1) 機械工学概論(1)		ものづくり実務概論(1)		生産管理(1)	品質管理(1) 自動車生産技術(1)	産業構造論(1)	信頼性工学(1)	生産機械(1) 製品開発計画(1) 実践に役立つ知財活用戦 略(1) トヨタ生産方式実践演習 (1)	生産システム学 および演習(2)					生産システムコース		
機械加工 S	測定基礎実習(0.5) 手仕上げ加工 および実習(1.5) 機械加工基礎 および実習(1.5) NCプログラム基礎 および実習(1.5) 溶接基礎・板金基礎および 実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5) NCプログラム基礎 および実習(1.5) 溶接基礎・板金基礎および 実習(1.5) 手仕上げ加工 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5) 溶接基礎・板金基礎および 実習(1.5) 手仕上げ加工 および実習(1.5) 機械加工基礎 および実習(1.5)	溶接基礎・板金基礎および 実習(1.5) 手仕上げ加工 および実習(1.5) NCプログラム基礎 および実習(1.5)			鍛造基礎実習(1) 鍛造基礎実習(1)	変形加工および実習(1.5)	精密計測および実験(1.5) 機械工作法B(1) 機械工作実験A(1) 機械工作実験B(1)	NC機械加工実習(1) 鍛造技術および実習 (1.5) 機械工作法A(1)	研削加工および 実習(1.5) 鋳造加工および 実習(1.5) 樹脂成形加工 および実習(1.5)		先進NC機械加工 および実習(1.5)						

Ⅱ-4. カリキュラムマップ

この図は、情報メカトロニクス学科で開講される授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を示しています。各科目について、学生が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかを示しています。履修の計画を立てる際の参考にしてください。

DP	授業科目名															
	1年				2年				3年				4年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
① 製造関連分野(機械デザイン、ロボットシステム、AI・情報システム、生産システム)に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)		ものづくり技術概論(1)	JavaScript基礎 および実習(1.5)	プロジェクト実習(2)				音響工学(1)	熱力学(1)	生命科学概論(1)	伝熱工学(1)	卒業研究および制作(12)			
	工学基礎および実験(1.5)	ロボット機構基礎 および実習(1.5)	Python基礎 および実習(1.5)	数値解析基礎 および実習(2)	ものづくり実務概論(1)	基礎インターンシップ(8)	工業数学(1)	ICT応用および実習(1.5)	ユーザ工学(1)	信頼性工学(1)	流体力学(1)	感性工学(1)	Lゼミ(8)			
	測定基礎実習(0.5)	基礎物理実験(1)	基礎化学(1)	基礎材料科学(1)	基礎物理Ⅳ(1)		材料力学Ⅱ(1)	熱・流体力学の基礎(1)	生体工学(1)	マイクロデバイス(1)	人間工学(1)	組込みシステム応用 および実習(1.5)	専門インターンシップⅠ(4)		専門インターンシップⅡ(8)	
	基礎数学Ⅰ(1)	基礎数学Ⅱ(1)	基礎数学Ⅲ(1)	基礎数学Ⅳ(1)	工業材料A(1)		生産管理(1)	品質管理(1)	知能化技術(1)	デジタルメディアデザインおよび実習 (1.5)	実践に役立つ知財活用戦略(1)	画像処理および 実習(1.5)	先進NC機械加工 および実習(1.5)			
	データサイエンス および実習(1.5)	ものづくり数理工学(1)	設計技法(1)	電気工学概論(1)	機械システムと メカニズム(1)		工業材料B(1)	統計的データ解析(1)	C言語および実習(1.5)	IoT技術および実験(1.5)	組込みシステム基礎 および実習(1.5)	AI技術および実習(2)				
	機械スケッチ演習(1)	基礎物理Ⅰ(1)	基礎物理Ⅱ(1)	プロダクトデザインおよび実習(1.5)	データマイニング基礎 および実習(1.5)	基礎数値解析(1)	CGプログラミング および実習(1.5)	センサ技術および 実験(1.5)	Javaプログラミング および実習(2)	インタフェース技術 および実習(1.5)	画像処理および実習(1.5)					
	手仕上げ加工 および実習(1.5)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	基礎物理Ⅲ(1)	材料力学Ⅰおよび 実験(1.5)	ネットワークの仕組(1)	アナログ回路および 実習(1.5)	ロボット技術 および実験Ⅰ(1.5)	メカトロニクスおよび 実験(1.5)	ロボット技術 および実験Ⅱ(1.5)	ロボット技術 および実験Ⅳ(1.5)					
	機械加工基礎 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	基礎電気工学および実験(1.5)		電気電子技術(1)	半導体(1)	精密計測および実験(1.5)	ロボット技術 および実験Ⅱ(1.5)	CAD/CAMおよび 実習(1.5)	3次元CADおよび DTPD演習(2)				
	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)			電気電子回路 および実験(1.5)	制御技術および 実験(1.5)	機械工作実験A(1)	自動制御および実験(1.5)	生産機械(1)	CAE応用および 演習(2)				
	溶接基礎・板金基礎および実習 (1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習 (1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習 (1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)			デジタル回路および 実習(1.5)	実践機械製図 および製作Ⅱ(1.5)	機械工作実験B(1)	自動化技術および実験(1.5)	トヨタ生産方式実践演習(1)	工業デザインプロセスおよび実習 (1.5)				
		基礎機械製図 および実習(1.5)	2次元CADおよび実習Ⅰ(1.5)	溶接基礎・板金基礎および実習 (1.5)			機械力学および 実験(1.5)	2次元CAD実習Ⅱ(1)	機械工作法B(1)	CAD設計製図 および実習(1.5)	研削加工および 実習(1.5)	生産システム学 および実習(2)				
			デジタルファブリケー ションおよび実習(1.5)	3次元CADおよび実習Ⅰ(1.5)			実践機械製図 および製作Ⅰ(1.5)	材料評価および実験(1.5)		CAE基礎および 演習(2)	樹形成形加工 および実習(1.5)					
			機械工学概論(1)				3次元CAD実習Ⅱ(1)	材料強度(1)		NC機械加工実習(1)	鍛造加工および 実習(1.5)					
							鋳造基礎実習(1)	自動車生産技術(1)			鋳造技術および実習(1.5)	製品開発計画(1)				
								変形加工および実習(1.5)			機械工作法A(1)					
② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)		設計技法(1)	電気工学概論(1)	プロジェクト実習(2)				アクチュエータおよび 実験(1.5)	メカトロニクスおよび 実験(1.5)	創造プロジェクト(3)		卒業研究および制作(12)			
	測定基礎実習(0.5)	基礎物理実験(1)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	データマイニング基礎 および実習(1.5)		Webデザイン および実習(1.5)	ICT応用および実習(1.5)	ロボット技術 および実験Ⅰ(1.5)	NC機械加工実習(1)	トヨタ生産方式実践演習(1)	AI技術および実習(2)				
	手仕上げ加工 および実習(1.5)	手仕上げ加工 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)	基礎電気工学および実験(1.5)		電気電子回路 および実験(1.5)		精密計測および実験(1.5)	鋳造技術および実習(1.5)	研削加工および 実習(1.5)					
	機械加工基礎 および実習(1.5)	機械加工基礎 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	材料力学Ⅰおよび 実験(1.5)		工業材料B(1)	アナログ回路および 実習(1.5)	機械工作実験A(1)	機械工作法A(1)	鍛造加工および 実習(1.5)					
	NCプログラム基礎 および実習(1.5)	NCプログラム基礎 および実習(1.5)		数値解析基礎 および実習(2)	工業材料A(1)		生産管理(1)	材料評価および実験(1.5)	機械工作実験B(1)		製品開発計画(1)					
③ 多様化する製造関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。	ビジネス コミュニケーションⅠ(1)	ビジネス コミュニケーションⅡ(1)	ものづくり技術概論(1)		ものづくり実務概論(1)	基礎インターンシップ(8)		ICT応用および実習(1.5)	産業構造論(1)	CAE基礎および 演習(2)	創造プロジェクト(3)		卒業研究および制作(12)			
								自動車生産技術(1)		熱力学(1)	流体力学(1)	IoT応用技術および実習(1.5)	Lゼミ(8)			
								熱・流体力学の基礎(1)				生命科学概論(1)	生産システム学 および実習(2)	専門インターンシップⅠ(4)		専門インターンシップⅡ(8)
												生産機械(1)	伝熱工学(1)			
													工業デザインプロセスおよび実習 (1.5)			
④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。	フレッシュマンゼミ(2)			プロダクトデザインおよび実習(1.5)	プロジェクト実習(2)				強度設計および演習(2)	ロボット技術 および実験Ⅱ(1.5)	生命科学概論(1)	IoT応用技術および実習(1.5)	卒業研究および制作(12)			
	ビジネス コミュニケーションⅠ(1)	ビジネス コミュニケーションⅡ(1)				基礎インターンシップ(8)	生産管理(1)	ICT応用および実習(1.5)	ユーザ工学(1)	自動化技術および実験(1.5)	インタフェース技術 および実習(1.5)		Lゼミ(8)			
		基礎物理実験(1)						CGプログラミング および実習(1.5)	生体工学(1)	機械要素応用(1)	実践に役立つ知財活用戦略(1)		専門インターンシップⅠ(4)		専門インターンシップⅡ(8)	
								統計的データ解析(1)	産業構造論(1)	エネルギー工学(1)	トヨタ生産方式実践演習(1)					
								品質管理(1)	精密計測および実験(1.5)	IoT技術および実験(1.5)						
								自動車生産技術(1)	機械工作法B(1)	機械工作法A(1)						

Ⅱ-5. ナンバリング

この表は、情報メカトロニクス学科で開講される授業科目に番号を付して分類することで、学修の段階や順序等を示しています。カリキュラムツリーとあわせて、履修の計画を立てる際の参考にしてください。

灰色：必修科目

授業科目の名称	第1区分				第2区分			第3区分
	学科	学年	コース		履修区分	科目区分	授業形態 講義:1 演習:2 講義演習:3 実習実験:4 講義実習:5	分野 コード
			共通C		必修:1	教養:1		
			AI :A 機械:M	ロボ:R 生産:P	選択必修:2	専門:2		
					選択:3	IS:3		
フレッシュマンゼミ	M	1	C		1	2	5	a01
プロジェクト実習	M	2	C		1	2	5	a02
創造プロジェクト	M	3	C		1	2	5	a03
Lゼミ	M	4	C		1	2	1	a04
卒業研究および制作	M	4	C		1	2	4	a05
基礎インターンシップ	M	2	C		3	3	4	a11
専門インターンシップⅠ※	M	4	C		3	3	4	a12
専門インターンシップⅡ※	M	4	C		3	3	4	a13
ビジネスコミュニケーションⅠ	M	1	C		3	2	1	b01
ビジネスコミュニケーションⅡ	M	1	C		3	2	1	b02
ライティング	M	1	C		3	2	1	b03
音響工学	M	3	C		3	2	1	c01
人間工学	M	3	C		3	2	1	c02
生命科学概論	M	3	C		3	2	1	c03
感性工学	M	3	C		3	2	1	c04
生体工学	M	3	C		3	2	1	c05
Webデザインおよび実習	M	2	A		2	2	5	d01
ICT応用および実習	M	2	C		3	2	5	d02
CGプログラミングおよび実習	M	2	M		2	2	5	d03
画像処理および実習	M	3	A	R	2	2	5	d04
デジタルメディアデザインおよび実習	M	3	A		2	2	5	d05
IoT技術および実験	M	3	A	R	2	2	5	d11
IoT応用技術および実習	M	3	A		2	2	5	d12
データサイエンスおよび実習	M	1	A		3	2	5	e01
Python基礎および実習	M	1	A		3	2	5	e02
JavaScript基礎および実習	M	1	A		3	2	5	e03
データマイニング基礎および実習	M	2	A		3	2	5	e04
ネットワークの仕組	M	2	A		2	2	1	e05
C言語および実習	M	3	A	R	2	2	5	e06
Javaプログラミングおよび演習	M	3	A	R	2	2	3	e07
電気工学概論	M	1	C		3	2	1	f01
基礎電気工学および実験	M	2	R		3	2	5	f02
電気電子技術	M	2	R		2	2	1	f03
デジタル回路および実習	M	2	A		2	2	5	f04
半導体	M	2	A		2	2	1	f05
電気電子回路および実験	M	2	R	M	2	2	5	f07
アナログ回路および実習	M	2	R		2	2	5	f08
制御技術および実験	M	2	R	M	2	2	5	f09
アクチュエータおよび実験	M	3	R		2	2	5	f10
センサ技術および実験	M	3	R	M A	2	2	5	f11
メカトロニクスおよび実験	M	3	A	R	2	2	5	f12
知能化技術	M	3	A		2	2	1	f13
自動化技術および実験	M	3	M		2	2	5	f14
自動制御および実験	M	3	R		2	2	5	f14
組込みシステム基礎および実習	M	3	A	R	2	2	5	f16

授業科目の名称	第1区分				第2区分			第3区分
	学科	学年	コース		履修区分	科目区分	授業形態	分野 コード
			共通C		必修:1	教養:1	講義:1	
			AI :A 機械:M	ロボ:R 生産:P	選択必修:2	専門:2	演習:2	
					選択:3	IS:3	講義演習:3 実習実験:4 講義実習:5	
インタフェース技術および実習	M	3	A		2	2	5	f18
組込みシステム応用および実習	M	3	A	R	2	2	5	f19
AI技術および演習	M	3	A		2	2	3	f20
ロボット機構基礎および実習	M	1	R		3	2	5	i01
ロボット技術および実験Ⅰ	M	3	R		2	2	5	i11
ロボット技術および実験Ⅱ	M	3	R		2	2	5	i12
ロボット技術および実験Ⅲ	M	3	R		2	2	5	i13
ロボット技術および実験Ⅳ	M	3	R		2	2	5	i14
基礎数学Ⅰ	M	1	C		3	2	1	j01
基礎数学Ⅱ	M	1	C		3	2	1	j02
ものづくり数理工学	M	1	C		3	2	1	j03
基礎数学Ⅲ	M	1	C		3	2	1	j04
基礎数学Ⅳ	M	1	C		3	2	1	j05
数値解析基礎および演習	M	1	R		3	2	3	j06
工業数学	M	2	C		3	2	1	j07
基礎数値解析	M	2	C		3	2	1	j08
統計的データ解析	M	2	C		3	2	1	j09
工学基礎および実験	M	1	C		1	2	5	k01
基礎物理Ⅰ	M	1	C		3	2	1	k02
基礎物理実験	M	1	C		3	2	1	k03
基礎物理Ⅱ	M	1	C		3	2	1	k04
基礎物理Ⅲ	M	1	C		3	2	1	k05
基礎物理Ⅳ	M	2	C		3	2	1	k06
基礎化学	M	1	C		3	2	1	k11
熱・流体力学の基礎力学の基礎	M	2	C		3	2	1	m01
熱力学	M	3	C		3	2	1	m02
伝熱工学	M	3	C		3	2	1	m04
流体力学	M	3	C		3	2	1	m05
機械力学および実験	M	2	M		2	2	5	m11
材料力学Ⅰおよび実験	M	2	M		3	2	5	n01
材料力学Ⅱ	M	2	C		3	2	1	n02
材料強度	M	2	C		3	2	1	n03
強度設計および演習	M	3	M		2	2	3	n04
機械スケッチ演習	M	1	C		3	2	2	p01
基礎機械製図および実習	M	1	M		2	2	5	p02
2次元C A Dおよび実習Ⅰ	M	1	M		2	2	5	p03
3次元C A Dおよび実習Ⅰ	M	1	M		3	2	5	p04
実践機械製図および製作Ⅰ	M	2	M		2	2	5	p05
実践機械製図および製作Ⅱ	M	2	M		2	2	5	p06
3次元C A D実習Ⅱ	M	2	P		2	2	4	p07
2次元C A D実習Ⅱ	M	2	M		2	2	4	p08
C A D設計製図および実習	M	3	M		2	2	5	p09
C A D/C A Mおよび実習	M	3	M	P	2	2	5	p10
3次元C A DおよびD T P D演習	M	3	M		2	2	3	p11
設計技法	M	1	C		3	2	1	p20
デジタルアプリケーションおよび実習	M	1	R		3	2	5	p21
プロダクトデザインおよび実習	M	1	C		3	2	5	p22
機械システムとメカニズム	M	2	C		3	2	1	p23
ユーザ工学	M	3	C		3	2	1	p24
機械要素応用	M	3	M		2	2	1	p25
エネルギー工学	M	3	C		3	2	1	p26
マイクロデバイス	M	3	C		3	2	1	p27

授業科目の名称	第1区分				第2区分			第3区分
	学科	学年	コース		履修区分	科目区分	授業形態	分野 コード
			共通C		必修:1	教養:1	講義:1	
			AI :A 機械:M	ロボ:R 生産:P	選択必修:2	専門:2	演習:2	
					選択:3	IS:3	講義演習:3 実習実験:4 講義実習:5	
CAE基礎および演習	M	3	M		2	2	3	p28
工業デザインプロセスおよび実習	M	3	M		2	2	5	p29
CAE応用および演習	M	3	M		2	2	3	p30
基礎材料学	M	1	C		3	2	1	q01
工業材料A	M	2	C		3	2	1	q02
工業材料B	M	2	C		3	2	1	q03
材料評価および実験	M	2	P		2	2	5	q04
ものづくり技術概論	M	1	C		1	2	1	r01
機械工学概論	M	1	C		3	2	1	r02
ものづくり実務概論	M	2	C		3	2	1	r03
生産管理	M	2	C		3	2	1	r04
品質管理	M	2	C		3	2	1	r05
自動車生産技術	M	2	P		2	2	1	r06
信頼性工学	M	3	C		3	2	1	r07
産業構造論	M	3	C		3	2	1	r08
生産機械	M	3	M		2	2	1	r10
実践に役立つ知財活用戦略	M	3	C		3	2	1	r11
トヨタ生産方式実践演習	M	3	P		2	2	3	r12
製品開発計画	M	3	C		3	2	1	r13
生産システム学および演習	M	3	P		2	2	3	r14
測定基礎実習	M	1	C		1	2	4	s01
手仕上げ加工および実習	M	1	M	P	3	2	5	s02
機械加工基礎および実習	M	1	M	P	3	2	5	s03
NCプログラム基礎および実習	M	1	M	P	3	2	5	s04
溶接基礎・板金基礎および実習	M	1	M		2	2	5	s05
鋳造基礎実習	M	2	M	P	2	2	4	s06
変形加工および実習	M	2	P		2	2	5	s07
精密計測および実験	M	3	P		2	2	5	s08
鋳造技術および実習	M	3	P		2	2	5	s09
鍛造加工および実習	M	3	P		2	2	5	s10
樹脂成形加工および実習	M	3	P		2	2	5	s11
研削加工および実習	M	3	P		2	2	5	s12
機械工作法A	M	3	P		2	2	1	s21
機械工作法B	M	3	P		2	2	1	s22
機械工作実験A	M	3	P		2	2	4	s23
機械工作実験B	M	3	P		2	2	4	s24
NC機械加工実習	M	3	P		2	2	4	s25
先進NC機械加工および実習	M	4	P		2	2	1	s26
ものづくり・ひとつくり総合講義A	M	1	C		2	1	1	u01
ものづくり・ひとつくり総合講義B	M	3	C		2	1	1	u02
スポーツ・コミュニケーション	M	1	C		2	1	1	u11
社会人基礎力育成講座Ⅰ	M	1	C		2	1	1	u21
社会人基礎力育成講座Ⅱ	M	2	C		1	1	1	u22
社会人基礎力育成講座Ⅲ	M	3	C		2	1	1	u23
社会人基礎力育成講座Ⅳ	M	4	C		2	1	1	u24
安全衛生	M	1	C		1	1	1	t01
救命衛生法	M	2	C		2	1	1	t02
創作実習A(夏期)	M	1	C		2	1	4	t11
創作実習B(夏期)	M	1	C		2	1	4	t12

授業科目の名称	第1区分				第2区分			第3区分
	学科	学年	コース		履修区分	科目区分	授業形態	分野 コード
			共通C		必修:1	教養:1	講義:1	
			AI :A 機械:M	ロボ:R 生産:P	選択必修:2	専門:2	演習:2	
					選択:3	IS:3	講義演習:3 実習実験:4 講義実習:5	
ICT基礎および実習Ⅰ	M	1	C		1	1	5	t21
データリテラシー・AI基礎	M	1	C		1	1	5	t22
ICT基礎および実習Ⅱ	M	1	C		2	1	5	t23
デザイン思考	M	1	C		2	1	1	t31
英語Ⅰ	M	1	C		2	1	1	v01
英語Ⅱ	M	1	C		2	1	1	v02
英語Ⅲ	M	2	C		2	1	1	v03
SDGs-A	M	2	C		2	1	1	v11
SDGs-B	M	2	C		2	1	1	v12
言語と文化	M	3	C		2	1	1	v21
日本文化論	M	3	C		2	1	1	v31
梅原猛で学ぶ学問と世界	M	4	C		2	1	1	v32
文明と社会	M	3	C		2	1	1	v41
Druckerで学ぶマネジメント	M	4	C		2	1	1	v42
留学生日本語Ⅰ	M	1	C		2	1	1	v51
留学生日本語能力演習	M	1	C		2	1	2	v53
留学生日本語Ⅱ	M	2	C		2	1	1	v52

C. カリキュラム

(建設学科 2026 年度入学者適用)

I. カリキュラム (教育課程)

II. 授業科目

III. 資格関連指定科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム（教育課程）

I-1. ディプロマ・ポリシー	57
I-2. カリキュラム・ポリシー	58
I-3. 応用課程のコース	59
I-4. 測量士補取得のためのG S コース	61
I-5. 取得可能な資格	62

I-1. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ① 建設関連分野（木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン）に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。
- ③ 多様化する建設関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

I-2. カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ① 入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制 (quarter 制度) の下で1 年 1 学期から 2 年 2 学期までを「基礎課程」、2 年 3 学期から 3 年 4 学期までを「応用課程」、そして 4 年 1 学期から 4 年 4 学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ② 基礎課程では、建設関連分野（木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン）に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。
- ③ 応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④ 専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、建設学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1 年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤ 上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要な不可欠なる教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、人文・社会科学さらに自然科学を学び、専門研究課程では本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解し、卒業後を見据え社会に巣立つテクノロジストとしての社会性・倫理性を身に付ける。

I-3. 応用課程のコース

応用課程（2 年次 3 クォータ～3 年次 4 クォータ）では、各専門分野の技能技術および専門知識の修得を目的とした 4 つのコースを設置しています。各コースの履修方法等については、事前にガイダンスまたは掲示を行います。

応用課程に置かれるコースは、木造建築コース（T）、都市・建築コース（S）、仕上・インテリアコース（F）、建築デザインコース（D）の 4 コースです。

配当される各授業科目の内容等については、WEB シラバスを参照してください。

各コースのエデュケーション・ポリシーは以下の通りです。

1) 木造建築コース（T コース）

① 目標とする学修成果

古代から現代まで脈々と受け継がれてきた木造建築技術。それは伝統構法を始めとし、木造軸組や枠組構法の他、耐震面にも優れた新構法、そして近年では大規模な都市木造を可能とするハイブリット構法などが創出されています。このように、木を活かした建築は今後さらなる発展が見込まれていますが、当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、木造建築のスペシャリストとして、戸建住宅・木造集合住宅・大規模な木造公共建築や社寺建築の他、現代まで継承されてきた歴史的建造物の保存修理事業などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では木材特性などを理解するため、まずは各種大工道具の取り扱い方から始まり、墨付け・木材加工・継手仕口の接合手法を学んでいきます。その後、徐々に高度となる課題をこなすことで、木組みの一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な伝統構法や軸組構法による木造建築の課題に取り組み、設計・積算・仮設計画・原寸図制作・木材加工・組立を段階的に進め、実物大の建築をチームで完成させます。また、構造特性の理解を深める目的から、構造設計や構造実験も併せて実施し、木材樹種や人工木材との所定断面強度の違いも理解を深めるようにします。

このように、総合的に木造建築が学べる授業科目編成となります。

2) 都市・建築コース（S コース）

① 目標とする学修成果

イギリスの産業革命が契機となり創出された新建材の鉄と鉄筋コンクリート。生産技術の進化により、世界で初めて 18 世紀後期に铸铁製アーチ橋が実現化し、さらに 19 世紀後期には鉄筋コンクリート造の建物も出現しました。これら新建材の特徴は自由な造形美と広い空間の確保に加え、災害にも強いという特性がありますが、正に都市を構成する建築物・構築物の主流となっています。当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、都市・建築のスペシャリストとして、大規模な集合住宅・商業施設・公共建築や医療・学校建築の他、社会基盤となるインフラ構造物の建設事業や都市計画などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では鉄筋やコンクリート特性などを理解するため、まずは調合や材料の強度測定試験から始まり、鋼材溶接・型枠・配筋・コンクリート打設・養生手法を学んでいきます。一方、建設現場で必須となる各種足場の計画・組立・解体も学び、建設計画の一連の流れを理解するよ

うにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な鉄筋コンクリート構造物や鋼構造物の課題に取り組み、それらの材料特性・構造性能・維持管理技術を修得し、さらに新たなハイブリット構法や耐震技術なども学んで理解を深めます。また、都市や社会基盤の維持保全・整備についても学修し、災害に強く暮らし易い国土の創生に関する専門的知識も身に付けます。このように、総合的に都市・建築が学べる授業科目編成となります。

3) 仕上・インテリアコース (F コース)

① 目標とする学修成果

建築を風雨などから守りその美を知らしめる仕上・インテリア技術。仏教伝来に伴って造立されたわが国の古代寺院建築も木部を朱塗りとすることで、建築装飾と防腐の役目を持たせていました。このように、建築保全と装飾美の追求は豊かな人間生活には欠かせないもので、古今東西の永遠の課題である一方、大いなる可能性が秘められた分野でもあると言えます。当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、仕上・インテリアのスペシャリストとして、あらゆる建築物の内外装の他、家具製作やランドスケープ整備事業などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では建築躯体を風雨から守る仕上素材特性などを理解するため、まずは各種塗料調合や塗装施工技術から始まり、屋根防水・外装タイルおよび左官仕上・鉄筋コンクリート構造物外装仕上げ・鋼構造物外装仕上げ手法を学んでいきます。このような課題をこなすことで、仕上技術の一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、実践的な各種建築物のインテリア計画と設計演習の他、湿式工法・乾式工法・塗装工法を修得し、さらに豊かな人間生活を実現するための家具製作も学んで理解を深めます。また、人間生活と自然との共生を意図したランドスケープ・デザインについても学修し、地域固有の自然と文化継承に関する専門的知識も身に付けます。

このように、総合的に仕上・インテリアが学べる授業科目編成となります。

4) 建築デザインコース (D コース)

① 目標とする学修成果

安全性・機能性・耐久性・意匠性と豊かな人間生活をデザインする設計技術。建築行為そのものは、目的用途や規模形状・地域特性・経済性を踏まえ、地域社会と共生可能な環境にも優しい建築物を創出しなければなりません。つまり、すべてにおいて洗練された建築造りが今、求められているのです。当コースでは実践的な授業を通して専門的な技術・技能と知識を修得することで、環境・建築デザインのスペシャリストとして、戸建住宅・集合住宅・商業施設・公共建築や医療・学校建築の他、地球規模の環境問題などにも従事できるテクノロジストを育成していきます。

② 授業科目編成

基礎課程では建築設計意図の有効な伝達手段となるドローイング手法などを理解するため、まずは手描きによる作図図法やトレース・模型製作から始まり、木造住宅や低層の鉄筋コンクリート造建物の設計技術を学んでいきます。このような課題をこなすことで、建築設計の一連の流れを理解するようにします。基礎インターンシップ後の応用課程からは、コンピュータを駆使した作図技法を修得する他、実践的な課題として仮定建設用地の現地視察調査・法令確認・エスキス・作図・プレゼンテーションなどで設計の理解を深めます。また、環境設計や各種設備設計などについても学修し、幅広い設計知識を身に付けます。

このように、総合的に環境・建築デザインが学べる授業科目編成となります。

I-4. 測量士補取得のためのG S コース

測量士補資格取得のためのG S コース (Geographical Surveyor's Course) を設置しています。
G S コースを修了した場合、卒業後に測量士補の登録を行うことができます。
G S コースの履修は定員制のため希望者から選抜となりますので、掲示等を確認してください。

G S コースを修了するためには、「測量基礎および実習」、「測量Ⅰ・Ⅱ」、「測量および実習Ⅰ・Ⅱ」の5科目を履修し合格するとともに、指定されたG S コースの必修科目 27.5 単位を取得し、かつ、指定された選択科目の中から 2.5 単位以上の単位数を取得する必要があります。

指定授業科目については、後述の「Ⅲ. 資格関連指定科目」のうち「測量士補の資格取得に必要な単位」を参照してください。

なお、前述の「測量Ⅰ・Ⅱ」、「測量および実習Ⅰ・Ⅱ」については、再履修を除き、配当年次以外の学生は履修できません（履修変更も不可）。

また、2 年次に「測量基礎インターンシップ」に行く必要があります。

I-5. 取得可能な資格

建設学科では、在学中または卒業後に下表の通り様々な建設関連資格の取得(受験資格含む)が可能です。それぞれの資格における指定科目等の条件設定については、「Ⅲ. 資格関連指定科目」または「WEBシラバス」を参照して下さい。

卒業（または在学）時に取得あるいは受験資格を得られる主な資格	
技術士補	技術士第一次試験受験資格 合格者は技術士補に登録可
アーク溶接特別教育	所定の授業（構造基礎および実習Ⅳ）を履修し、所定の成績で合格した者に修了証交付
建築積算士補	所定の授業（建設積算Ⅰ）を履修し、所定の成績で合格した者は資格取得
測量士補	所定の授業（G S コース）を履修し単位を修得した者は卒業時に登録
一級建築士	大学で認定を受けた指定科目を所定単位以上修得して受験資格 資格登録は、取得単位数により異なる
二級建築士	
木造建築士	
本学のカリキュラムを履修することで受験に有利となる主な資格	
基本情報技術者	2～3 年次で受験準備 ものづくりの現場での I T 化に貢献する資格
玉掛け技能 小型移動クレーン運転技能、 フォークリフト運転技能等	学内掲示により、指定期間に短期講習申込・受講（費用別途）
三級または二級技能検定 （建築大工、造園、左官、 家具製作、とび等）	学内掲示により、特別講習の日程に合わせて申込・研修参加・受験（費用別途）
商業施設士補	大学で認定を受けた指定科目を 34 単位以上修得し、商業施設士補資格講習会を受講修了すること（費用別途）
実務経験を重ねることによって受験資格が得られる主な資格	
技術士	技術士補または第一次試験合格後、4 年の実務経験で第二次試験の受験資格 合格者は技術士に登録
測量士	測量士補として実務経験 1 年で資格取得
二級施工管理技士 （土木、建築、管工事、造園、 建設機械）	実務経験 1 年で受験資格
一級施工管理技士 （土木、建築、管工事、造園、 建設機械）	実務経験 3 年で受験資格
建築設備士	実務経験 2 年で受験資格

Ⅱ．授業科目

Ⅱ-1. 授業科目配当表（2026 年度入学生）	64
Ⅱ-2. 授業科目一覧	66
Ⅱ-3. カリキュラムツリー	70
Ⅱ-4. カリキュラムマップ	72
Ⅱ-5. ナンバリング	74

II-1. 授業科目配当表 (2026年度入学生)

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

学年	1年						2年									
			3 Q		4 Q		1 Q		2 Q		3 Q		4 Q			
課程	基礎課程															
教養科目	安全衛生	1	ものづくり・ひとつくり総合講義A	2	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	基礎 イン ター ン シ ッ プ （ 一 般 ・ 建 築 士 ・ 測 量 ）	SDGs-A	1	SDGs-B	1	
	ICT基礎および実習Ⅰ	1.5	データリテラシー・AI基礎	1	スポーツ・コミュニケーション	1	デザイン思考	1	救命衛生法	1		留学生日本語Ⅱ	1			
	留学生日本語Ⅰ	2			ICT基礎および実習Ⅱ	1.5	留学生日本語能力演習	1								
	創作実習A（夏期）	1														
	創作実習B（夏期）	1														
	社会人基礎力育成講座Ⅰ						1	社会人基礎力育成講座Ⅱ			社会人基礎力育成講座Ⅱ				1	
	ものづくり基礎探究（高大連携）※															
専門（講義系）共通科目	予ゼミ				予ゼミ	2	基礎ゼミ				基礎ゼミ			2		
	基礎数学Ⅰ	1	基礎数学Ⅱ	1	構造力学Ⅰ	1	構造力学Ⅱ	1	材料力学Ⅰ	1	材料力学Ⅱ	1	応用力学	1		
	構工法Ⅰ	1	構工法Ⅱ	1	建設概論	1	木質材料及び木材乾燥	1	建築施工	1	建築環境工学A	1	建築設備工学A	1		
	測量基礎および実習	1.5	安全工学	1	建築計画Ⅰ	1	社会基盤	1	仕上材料科学	1	建築環境工学B	1	建築生産	1		
		木材基礎	1		地盤工学	1	都市計画	1	工程計画Ⅰ	1	測量Ⅰ	1	測量Ⅱ	1		
								建設CADおよび実習Ⅰ	1.5		測量および実習Ⅰ	1.5	測量および実習Ⅱ	1.5		
コース別専門科目 （主に実技系）	（木造建築コース関連科目）								（木造建築コース）							
	木造基礎および実習Ⅰ	1.5	木造基礎および実習Ⅱ	1.5	木造基礎および実習Ⅲ	1.5	木造基礎および実習Ⅳ	1.5	木造基礎および実習Ⅴ	1.5	住宅論	1	木割と規矩	1		
												木造応用および実習Ⅰ	1.5			
												木造応用および実習Ⅱ	1.5			
	（都市・建築コース関連科目）								（都市・建築コース）							
	構造基礎および実習Ⅰ	1.5	構造基礎および実習Ⅱ	1.5	構造基礎および実習Ⅲ	1.5	構造基礎および実習Ⅳ	1.5	構造基礎および実習Ⅴ	1.5	都市系	鋼構造物応用および実習	1.5	鋼構造	1	
											建築系	伝統構法構造物および実習Ⅰ	1.5			
												伝統構法構造物および実習Ⅱ	1.5			
	（仕上・インテリア関連科目）								（仕上・インテリアコース）							
	仕上基礎および実習Ⅰ	1.5	仕上基礎および実習Ⅱ	1.5	仕上基礎および実習Ⅲ	1.5	仕上基礎および実習Ⅳ	1.5	仕上基礎および実習Ⅴ	1.5	仕上系	湿式仕上技能および実習	1.5	乾式仕上技能および実習	1.5	
										インテリア系	人間工学	1	インテリア計画	1		
（建築デザイン関連科目）								（建築デザインコース）								
基礎設計製図および実習Ⅰ	1.5	基礎設計製図および実習Ⅱ	1.5	基礎設計製図および実習Ⅲ	1.5	基礎設計製図および実習Ⅳ	1.5	基礎設計製図および実習Ⅴ	1.5	環境系		環境設計および実習A	1.5			
										建築D系	建築計画Ⅱ	1				
											建築応用設計および実習Ⅰ	1.5	建築応用設計および実習Ⅱ	1.5		

※開講予定は別途案内する

3 年					4 年								
1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q						
応用課程				専門研究課程									
ものづくり・ひとづくり総合講義B	1	言語と文化	1	日本文化論	1	文明と社会	1	梅原猛で学ぶ 学問と世界	1	Druckerで学ぶ マネジメント	1		
社会人基礎力育成講座Ⅲ				1	社会人基礎力育成講座Ⅳ				1				
				応用ゼミ	2	Lゼミ				8			
日本建築史	1	西洋建築史	1	近現代建築史	1	保全・保存修復学	1	卒業研究および制作					
建築設備工学B	1	建築法規Ⅱ	1	建設積算Ⅰ	1	建設積算Ⅱ	1						
建築法規Ⅰ	1		1	建築法規Ⅲ	1								
工程計画Ⅱ	1												
木造軸組工法	1	木造住宅設計および実習Ⅰ	1.5	木造住宅設計および実習Ⅱ	1.5	木造住宅設計および実習Ⅲ	1.5						
木造応用および実習Ⅲ	1.5	木造応用および実習Ⅴ	1.5	木造応用および実習Ⅶ	1.5								
木造応用および実習Ⅳ	1.5	木造応用および実習Ⅵ	1.5	木造応用および実習Ⅷ	1.5								
		木質構造新工法	1	木質構造および実験Ⅰ	1.5	木質構造および実験Ⅱ	1.5						
				木質構造設計演習Ⅰ	1	木質構造設計演習Ⅱ	1						
都市インフラおよび実習	1.5	自然・都市 水理・土質工学 水防工学	1 1 1			建設マネジメント RC構造物診断および実習	1 1.5						
地盤調査土質実験 および実習	1.5	構造物強度設計および実習	1.5										
RC施工	1			BIMおよび実習Ⅰ	1.5	地震防災工学	1						
鉄筋コンクリート構造	1			新耐震設計法および演習	2	BIMおよび実習Ⅱ	1.5						
RC構造物応用および実習Ⅰ	1.5	RC構造物応用および実習Ⅱ	1.5										
造園・ガーデニング技法	1			仕上げ・下地・乾式・湿式	1	外装仕上および実習Ⅰ	1.5						
		ランドスケープ設計および実習Ⅰ	1.5	ランドスケープ設計および実習Ⅱ	1.5	外装仕上および実習Ⅱ	1.5						
木材工学	1	木材加工法	1	家具技能および実習Ⅱ	1.5	家具技能および実習Ⅳ	1.5						
インテリア設計および実習	1.5	家具技能および実習Ⅰ	1.5	家具技能および実習Ⅲ	1.5	家具技能および実習Ⅴ	1.5						
環境設計および実習B	1.5	環境調査測定および実習	1.5	建築設備および実習	1.5	建築設備設計および実習Ⅱ	1.5						
				建築設備設計および実習Ⅰ	1.5								
建設CADおよび実習Ⅱ	1.5	建設CADおよび実習Ⅲ	1.5										
建築応用設計および実習Ⅲ	1.5	建築応用設計および実習Ⅲ	1.5	建築応用設計および実習Ⅴ	1.5	建築応用設計および実習Ⅵ	1.5						
		景観計画	1	建築観察学	1	ユニバーサルデザイン設計および実習	1.5						
				専門インターンシップ（一般・建築士・測量）				8					

注

必修科目

Ⅱ-2. 授業科目一覧

開講される学期が変更される場合がありますので、各年度の時間割で確認してください。

授業科目一覧

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
教養科目	ICT基礎および実習Ⅰ	1	2	1.5					
	安全衛生	1	1	1					
	データリテラシー・AI基礎	1	1	1					
	留学生日本語Ⅰ	1	2			2			
	ものづくり・ひとづくり総合講義A	1	2			2			
	スポーツ・コミュニケーション	1	1			1			
	ICT基礎および実習Ⅱ	1	2			1.5			
	英語Ⅰ	1	2			2			
	英語Ⅱ	1	2			2			
	デザイン思考	1	1			1			
	留学生日本語能力演習	1	1			1			
	創作実習A	1	1			1			
	創作実習B	1	1			1			
	社会人基礎力育成講座Ⅰ	1	1			1			
	ものづくり基礎探究(高大連携)	1	1		1				
専門共通科目	Fゼミ	1	2	2					
	構造力学Ⅰ	1	1	1			⑤	◎	A-5
	建築計画Ⅰ	1	1	1			②		
	基礎数学Ⅰ	1	1		1			◎	
	基礎数学Ⅱ	1	1		1			◎	
	建設概論	1	1		1				
	構造力学Ⅱ	1	1		1		⑤	◎	A-5
	地盤工学	1	1		1			◎	
	安全工学	1	1		1		⑩		A-3
	構工法Ⅰ	1	1		1		⑥		
	構工法Ⅱ	1	1		1		⑥		A-4
	社会基盤	1	1		1		⑧	△	
	木材基礎	1	1		1		⑦		A-4
	測量基礎および実習	1	2		1.5		⑩	◎	A-5
	都市計画	1	1		1		⑩	◎	A-3
	木質材料および木材乾燥	1	1		1		⑦		A-4
専門科目	基礎設計製図および実習Ⅲ	1	2	1.5			①		B-1
	木造基礎および実習Ⅰ	1	2		1.5				A-5
	木造基礎および実習Ⅱ	1	2		1.5		⑧		A-5
	木造基礎および実習Ⅲ	1	2		1.5		⑩		A-5
	木造基礎および実習Ⅳ	1	2		1.5				A-5
	構造基礎および実習Ⅰ	1	2		1.5		⑧		A-5
	構造基礎および実習Ⅱ	1	2		1.5		⑦		A-5
	構造基礎および実習Ⅲ	1	2		1.5		⑧		A-5
	構造基礎および実習Ⅳ	1	2		1.5		⑧		
	基礎設計製図および実習Ⅰ	1	2		1.5		⑩		B-1
	基礎設計製図および実習Ⅱ	1	2		1.5		①		B-1
	基礎設計製図および実習Ⅳ	1	2		1.5		①		B-1
	仕上基礎および実習Ⅰ	1	2		1.5				
	仕上基礎および実習Ⅱ	1	2		1.5		⑧		
	仕上基礎および実習Ⅲ	1	2		1.5		⑧		
	仕上基礎および実習Ⅳ	1	2		1.5		⑧		
教養科目	社会人基礎力育成講座Ⅱ	2	1	1					
	英語Ⅲ	2	2			2			
	救命衛生法	2	1			1			
	SDGs-A	2	1			1			
	SDGs-B	2	1			1			
	留学生日本語Ⅱ	2	1			1			

授業科目一覧

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
専門 共通科目	基礎ゼミ	2	2	2					
	建築環境工学A	2	1	1			③		
	材料力学Ⅰ	2	1		1		⑤	◎	
	材料力学Ⅱ	2	1		1		⑤	△	A-5
	工程計画Ⅰ	2	1		1		⑧		A-4
	仕上材料学	2	1		1		⑦		A-5
	建築施工	2	1		1				
	建築設備工学A	2	1		1		④		
	建築環境工学B	2	1		1		③		A-3
	応用力学	2	1		1		⑤	△	
	建設CADおよび実習Ⅰ	2	2		1.5		①		B-1
	測量Ⅰ	2	1		1		⑩	◎	
	測量Ⅱ	2	1		1			◎	
	建築生産	2	1		1		⑧		
	測量および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑩	◎	
	測量および実習Ⅱ	2	2		1.5			◎	
専門 科目	一般基礎インターンシップ	2	40日	8					
	建築士基礎インターンシップ	2	40日	8			⑩		
	測量基礎インターンシップ	2	40日	8				◎	
	木造基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑩		
	構造基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑧		
	基礎設計製図および実習Ⅴ	2	2		1.5		①		
	鋼構造物応用および実習	2	2		1.5		⑧		
	建築応用設計および実習Ⅰ	2	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅱ	2	2		1.5		①		B-1
	仕上基礎および実習Ⅴ	2	2		1.5		⑧		A-5
	人間工学	2	1		1		②		A-3
	建築計画Ⅱ	2	1		1		②		
	インテリア計画	2	1		1		②		A-3
	鋼構造	2	1		1		⑥	△	A-4
	木割と規矩	2	1		1		⑩		
	住宅論	2	1		1		②		
	木造応用および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅱ	2	2		1.5		⑧		A-5
	伝統構法構造物および実習Ⅰ	2	2		1.5		⑩		A-5
	伝統構法構造物および実習Ⅱ	2	2		1.5		⑩		A-5
	湿式仕上技能および実習	2	2		1.5		⑧		A-5
	乾式仕上技能および実習	2	2		1.5		⑧		A-5
	環境設計および実習A	2	2		1.5		③		
教養 科目	ものづくり・ひとづくり総合講義B	3	1			1			
	言語と文化	3	1			1			
	日本文化論	3	1			1			A-1
	文明と社会	3	1			1			
	社会人基礎力育成講座Ⅲ	3	1			1			
専門 共通科目	応用ゼミ	3	2	2					
	建築法規Ⅰ	3	1	1			⑨		
	工程計画Ⅱ	3	1		1		⑧		A-4
	建築法規Ⅱ	3	1		1		⑨		A-4
	建築法規Ⅲ	3	1		1		⑨		A-4
	西洋建築史	3	1		1		②		A-3
	建築設備工学B	3	1		1		④		A-3
	建設積算Ⅰ	3	1		1		⑧		A-4
	建設積算Ⅱ	3	1		1		⑧		A-4
	日本建築史	3	1		1		②		A-3
	近現代建築史	3	1		1		②		A-3
	保全・保存修復学	3	1		1		②		

授業科目一覧

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
専門科目	建設CADおよび実習Ⅱ	3	2		1.5		①		B-1
	建設CADおよび実習Ⅲ	3	2		1.5		⑩		B-1
	インテリア設計および実習	3	2		1.5		①		B-1
	ユニバーサルデザイン設計および実習	3	2		1.5				
	木造軸組工法	3	1		1		⑥		
	木材工学	3	1		1		⑦		A-4
	鉄筋コンクリート構造	3	1		1		⑥	△	A-4
	建築観察学	3	1		1		②		
	仕上げ・下地・乾式・湿式	3	1		1		⑦		A-5
	木質構造新工法	3	1		1		⑥		A-5
	木材加工法	3	1		1				
	水理・土質工学	3	1		1		⑤	◎	
	水防工学	3	1		1			△	
	RC施工	3	1		1		⑧		A-5
	自然・都市	3	1		1			◎	A-3
	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	3	2		1.5		⑩		B-1
	造園・ガーデニング技法	3	1		1		⑩		
	木質構造設計演習Ⅰ	3	1		1		⑥		B-1
	木質構造設計演習Ⅱ	3	1		1		⑥		B-1
	BIMおよび実習Ⅰ	3	2		1.5		⑩		A-4
	景観計画	3	1		1		②		A-3
	地震防災工学	3	1		1		⑤		
	木造応用および実習Ⅲ	3	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅳ	3	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅴ	3	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅵ	3	2		1.5		⑧		A-5
専門科目	木造応用および実習Ⅶ	3	2		1.5		⑧		A-5
	木造応用および実習Ⅷ	3	2		1.5		⑧		A-5
	木質構造および実験Ⅰ	3	2		1.5		⑦		A-5
	木質構造および実験Ⅱ	3	2		1.5		⑥		A-5
	構造物強度設計および実習	3	2		1.5			◎	
	BIMおよび実習Ⅱ	3	2		1.5				
	地盤調査土質実験および実習	3	2		1.5		⑩	◎	A-5
	RC構造物応用および実習Ⅰ	3	2		1.5		⑧		A-5
	RC構造物応用および実習Ⅱ	3	2		1.5		⑧		A-5
	都市インフラおよび実習	3	2		1.5			△	
	木造住宅設計および実習Ⅰ	3	2		1.5		①		B-1
	木造住宅設計および実習Ⅱ	3	2		1.5		①		B-1
	木造住宅設計および実習Ⅲ	3	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅲ	3	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅳ	3	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅴ	3	2		1.5		①		B-1
	建築応用設計および実習Ⅵ	3	2		1.5		①		B-1
	建築設備および実習	3	2		1.5		⑩		A-5
	環境設計および実習B	3	2		1.5		④		
	環境調査測定および実習	3	2		1.5		③		
	家具技能および実習Ⅰ	3	2		1.5				A-5
	家具技能および実習Ⅱ	3	2		1.5				A-5
	家具技能および実習Ⅲ	3	2		1.5				A-5
	家具技能および実習Ⅳ	3	2		1.5				A-5
	家具技能および実習Ⅴ	3	2		1.5				A-5
	RC構造物診断および実習	3	2		1.5		⑧		
	建築設備設計および実習Ⅰ	3	2		1.5		④		
	建築設備設計および実習Ⅱ	3	2		1.5		④		
	新耐震設計法および演習	3	2		2		⑤		
	ランドスケープ設計および実習Ⅱ	3	2		1.5		⑩		
	外装仕上および実習Ⅰ	3	2		1.5		⑧		
	外装仕上および実習Ⅱ	3	2		1.5		⑧		
	建設マネジメント	3	1		1		⑧	◎	A-1

授業科目一覧

	授業科目の名称 (正式名称案)	配当年次	時間数	単位数			建築士	測量士補 ◎必修 △選択	商業施設士補
				必修	選択	選択必修			
教養科目	梅原猛で学ぶ学問と世界	4	1			1			
	Druckerで学ぶマネジメント	4	1			1			
	社会人基礎力育成講座Ⅳ	4	1			1			
専門共通科目	Ｌゼミ	4	2	8					
	卒業研究および制作	4	4Q分	12					
専門科目	一般専門インターンシップ	4	40日		8				
	建築士専門インターンシップ	4	40日		8		⑩		
	測量専門インターンシップ	4	40日		8			△	

Ⅱ-3. カリキュラムツリー

この図は、建設学科で開講される授業科目間の関連を学習内容の連続性に基づいて示しています。図から、上級年次の科目を選択するうえで履修しておくことが望ましい科目が分かりますので、履修の計画を立てる際の参考にしてください。なお、専門コースと科目の関係については授業科目一覧または授業科目配当表で確認してください。

分野	1学年第1Q	1学年第2Q	1学年第3Q	1学年第4Q	2学年第1Q	2学年第2Q	2学年第3Q	2学年第4Q	3学年第1Q	3学年第2Q	3学年第3Q	3学年第4Q	4学年第1Q	4学年第2Q	4学年第3Q	4学年第4Q
a	ゼミ	Fゼミ		Fゼミ	基礎ゼミ		基礎ゼミ				応用ゼミ		Lゼミ			
b		建築計画	建設概論				住宅論		日本建築史	西洋建築史	近現代建築史	保全・保存修復学				
			建築計画Ⅰ				建築計画Ⅱ			景観計画	建築観察学					
							人間工学									
c	設計製図	基礎設計製図および実習Ⅰ	基礎設計製図および実習Ⅱ	基礎設計製図および実習Ⅲ	基礎設計製図および実習Ⅳ	基礎設計製図および実習Ⅴ	建築応用設計および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅱ	建築応用設計および実習Ⅲ	建築応用設計および実習Ⅳ	建築応用設計および実習Ⅴ	建築応用設計および実習Ⅵ				
												ユニバーサルデザイン設計および実習				
d							インテリア	インテリア計画	インテリア設計および実習							
e				CAD	建設CADおよび実習Ⅰ				建設CADおよび実習Ⅱ	建設CADおよび実習Ⅲ						
f						環境設備	建築環境工学A	建築設備工学A	建築設備工学B		建築設備設計および実習Ⅰ	建築設備設計および実習Ⅱ				
							建築環境工学B	環境設計および実習A	環境設計および実習B	環境調査測定および実習	建築設備および実習					
g								建築法規	建築法規Ⅰ	建築法規Ⅱ	建築法規Ⅲ					
h	構造材料力学	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ	構造力学Ⅰ	構造力学Ⅱ	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	応用力学			新耐震設計法および演習	地震防災工学				
i	建築生産	構工法Ⅰ	構工法Ⅱ			建築施工		建築生産			建設積算Ⅰ	建設積算Ⅱ				
			安全工学			工程計画Ⅰ			工程計画Ⅱ		BIMおよび実習Ⅰ	BIMおよび実習Ⅱ				
j	木造	木造基礎および実習Ⅰ	木造基礎および実習Ⅱ	木造基礎および実習Ⅲ	木造基礎および実習Ⅳ	木造基礎および実習Ⅴ		木造応用および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅲ	木造応用および実習Ⅴ	木造応用および実習Ⅶ					
								木造応用および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅵ	木造応用および実習Ⅷ					
								木割と規矩	木造軸組工法	木造住宅設計および実習Ⅰ	木造住宅設計および実習Ⅱ	木造住宅設計および実習Ⅲ				
										木質構造新工法	木質構造設計演習Ⅰ	木質構造設計演習Ⅱ				
											木質構造および実験Ⅰ	木質構造および実験Ⅱ				
k	木材・家具	木材基礎		木質材料および木材乾燥					木材工学	木材加工法	家具技能および実習Ⅱ	家具技能および実習Ⅳ				
										家具技能および実習Ⅰ	家具技能および実習Ⅲ	家具技能および実習Ⅴ				
m	建築仕上げ	仕上基礎および実習Ⅰ	仕上基礎および実習Ⅱ	仕上基礎および実習Ⅲ	仕上基礎および実習Ⅳ	仕上基礎および実習Ⅴ	湿式仕上技能および実習	乾式仕上技能および実習			仕上げ・下地・乾式・湿式	外装仕上および実習Ⅰ				
						仕上材料学						外装仕上および実習Ⅱ				
n	一般構造	構造基礎および実習Ⅰ	構造基礎および実習Ⅱ	構造基礎および実習Ⅲ	構造基礎および実習Ⅳ	構造基礎および実習Ⅴ	伝統構法構造物および実習Ⅰ		RC構造物応用および実習Ⅰ	RC構造物応用および実習Ⅱ						
							伝統構法構造物および実習Ⅱ		RC施工							
							鋼構造物応用および実習	鋼構造	鉄筋コンクリート構造							
p	社会基盤	測量基礎および実習		地盤工学			測量Ⅰ	測量Ⅱ	地盤調査土質実験および実習	構造物強度設計および実習		建設マネジメント				
				社会基盤			測量および実習Ⅰ	測量および実習Ⅱ	都市インフラおよび実習	水理・土質工学		RC構造物診断および実習				
				都市計画						水防工学						
										自然・都市						
q								造園	造園・ガーデニング技法	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	ランドスケープ設計および実習Ⅱ					

Ⅱ-4. カリキュラムマップ

この図は、建設学科で開講される授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を示しています。各科目について、学生が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかが示しています。履修の計画を立てる際の参考にしてください。

ディプロマ・ポリシー (DP)	授業科目名																	
	1年				2年				3年				4年					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
① 建設関連分野(木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン)に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。	木造基礎および実習Ⅰ	基礎設計製図および実習Ⅱ	構造力学Ⅰ	木造基礎および実習Ⅳ	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ		建築法規Ⅰ	木材加工法	応用ゼミ		Ｌゼミ					
	測量基礎および実習	構造基礎および実習Ⅱ	建築計画Ⅰ	社会基盤	仕上材料学	建築士基礎インターンシップ	建築環境工学A	建築生産	工程計画Ⅱ	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	建築法規Ⅲ	建設積算Ⅱ	卒業研究および制作					
	基礎数学Ⅰ	安全工学	基礎設計製図および実習Ⅲ	地盤工学	木造基礎および実習Ⅴ	測量基礎インターンシップ	建築環境工学B	測量Ⅱ	建設CADおよび実習Ⅱ	西洋建築史	木造応用および実習Ⅶ	木質構造および実験Ⅱ	建築士専門インターンシップ					
	構工法Ⅰ	仕上基礎および実習Ⅱ	木造基礎および実習Ⅲ	構造力学Ⅱ	建築施工		鋼構造物応用および実習	応用力学	日本建築史	景観計画	木造応用および実習Ⅷ	RC構造物診断および実習	測量専門インターンシップ					
	構造基礎および実習Ⅰ	構工法Ⅱ	建設概論	基礎設計製図および実習Ⅳ	材料力学Ⅰ		建築応用設計および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅱ	インテリア設計および実習	家具技能および実習Ⅰ	木造住宅設計および実習Ⅱ	家具技能および実習Ⅳ						
	基礎設計製図および実習Ⅰ	木造基礎および実習Ⅱ	構造基礎および実習Ⅲ	構造基礎および実習Ⅳ	工程計画Ⅰ		測量および実習Ⅰ	インテリア計画	鉄筋コンクリート構造	水理・土質工学	建築応用設計および実習Ⅴ	家具技能および実習Ⅴ						
	仕上基礎および実習Ⅰ	木材基礎	仕上基礎および実習Ⅲ	仕上基礎および実習Ⅳ	建設CADおよび実習Ⅰ		人間工学	測量および実習Ⅱ	建築設備工学B	水防工学	建築設備設計および実習Ⅰ	ユニバーサルデザイン設計および実習						
		基礎数学Ⅱ		都市計画	構造基礎および実習Ⅴ		建築計画Ⅱ	建築設備工学A	RC施工	建設CADおよび実習Ⅲ	BIMおよび実習Ⅰ	保全・保存修復学						
				木質材料および木材乾燥	仕上基礎および実習Ⅴ		住宅論	鋼構造	木造応用および実習Ⅲ	建築法規Ⅱ	仕上げ・下地・乾式・湿式	地震防災工学						
				伝統構法構造物および実習Ⅰ	木割と規矩		木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅴ	建設積算Ⅰ	BIMおよび実習Ⅱ								
				伝統構法構造物および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅰ		地盤調査土質実験および実習	木造応用および実習Ⅵ	近現代建築史	木造住宅設計および実習Ⅲ								
				測量Ⅰ	木造応用および実習Ⅱ		RC構造物応用および実習Ⅰ	RC構造物応用および実習Ⅱ	木質構造および実験Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅵ								
				材料力学Ⅱ	乾式仕上技能および実習		都市インフラおよび実習	木造住宅設計および実習Ⅰ	家具技能および実習Ⅱ	建築設備設計および実習Ⅱ								
					環境設計および実習A		建築応用設計および実習Ⅲ	建築応用設計および実習Ⅳ	家具技能および実習Ⅲ	外装仕上および実習Ⅰ								
							環境設計および実習B	環境調査測定および実習	建築観察学	外装仕上および実習Ⅱ								
							木造軸組工法	木質構造新工法	新耐震設計法および演習	木質構造設計演習Ⅱ								
							木材工学	自然・都市	木質構造設計演習Ⅰ									
							造園・ガーデニング技法		ランドスケープ設計および実習Ⅱ									
② 学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。	Fゼミ	木造基礎および実習Ⅱ	構造基礎および実習Ⅲ	Fゼミ		基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ		工程計画Ⅱ	ランドスケープ設計および実習Ⅰ	応用ゼミ		Ｌゼミ				
	木造基礎および実習Ⅰ	構造基礎および実習Ⅱ	仕上基礎および実習Ⅲ	仕上基礎および実習Ⅳ	木造基礎および実習Ⅴ	建築士基礎インターンシップ	鋼構造物応用および実習	建築生産	木造応用および実習Ⅲ	景観計画	木造応用および実習Ⅶ	木質構造および実験Ⅱ	卒業研究および制作					
	測量基礎および実習	安全工学	木造基礎および実習Ⅲ	木造基礎および実習Ⅳ	工程計画Ⅰ	測量基礎インターンシップ	建築応用設計および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅱ	木造応用および実習Ⅳ	家具技能および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅷ	RC構造物診断および実習	測量専門インターンシップ					
	構工法Ⅰ				基礎設計製図および実習Ⅴ		伝統構法構造物および実習Ⅰ	測量および実習Ⅱ	RC構造物応用および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅴ	建築応用設計および実習Ⅴ	家具技能および実習Ⅳ						
	構造基礎および実習Ⅰ				伝統構法構造物および実習Ⅱ		乾式仕上技能および実習	木造軸組工法	木造応用および実習Ⅵ	建築設備および実習	家具技能および実習Ⅴ							
	仕上基礎および実習Ⅰ				湿式仕上技能および実習		木造応用および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅲ	構造物強度設計および実習	BIMおよび実習Ⅰ	外装仕上および実習Ⅰ							
					測量Ⅰ		木造応用および実習Ⅱ		RC構造物応用および実習Ⅱ	建設積算Ⅰ	外装仕上および実習Ⅱ							
					建築応用設計および実習Ⅳ		木質構造および実験Ⅰ		BIMおよび実習Ⅱ									
							ランドスケープ設計および実習Ⅱ											
		家具技能および実習Ⅱ																
③ 多様化する建設関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。	測量基礎および実習	構工法Ⅱ	建築計画Ⅰ	社会基盤	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ		日本建築史	西洋建築史	応用ゼミ		Ｌゼミ					
	構工法Ⅰ	安全工学	建設概論	仕上基礎および実習Ⅳ	工程計画Ⅰ	建築士基礎インターンシップ	建築環境工学A	建築生産	工程計画Ⅱ	景観計画	BIMおよび実習Ⅰ	建設マネジメント	卒業研究および制作					
	仕上基礎および実習Ⅰ				基礎設計製図および実習Ⅴ	測量基礎インターンシップ	建築環境工学B	測量Ⅱ		構造物強度設計および実習	建設積算Ⅰ	ユニバーサルデザイン設計および実習	測量専門インターンシップ					
					構造基礎および実習Ⅴ		建築応用設計および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅱ		建築応用設計および実習Ⅳ	近現代建築史	保全・保存修復学						
							人間工学	測量および実習Ⅱ				建築応用設計および実習Ⅵ						
住宅論							木割と規矩	建築応用設計および実習Ⅵ										
伝統構法構造物および実習Ⅰ		鋼構造	外装仕上および実習Ⅱ															
伝統構法構造物および実習Ⅱ		BIMおよび実習Ⅱ																
④ 実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。	Fゼミ		建設概論	Fゼミ	基礎ゼミ	一般基礎インターンシップ	基礎ゼミ		建設CADおよび実習Ⅱ	景観計画	応用ゼミ		Ｌゼミ					
			構造基礎および実習Ⅳ	木造基礎および実習Ⅴ	建築士基礎インターンシップ	建築応用設計および実習Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅱ	インテリア設計および実習	家具技能および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅶ	建設マネジメント	卒業研究および制作						
				構造基礎および実習Ⅴ		人間工学	鋼構造	鉄筋コンクリート構造	建設CADおよび実習Ⅲ	木造応用および実習Ⅷ	建設積算Ⅱ	一般専門インターンシップ						
				住宅論		環境設計および実習A	木造応用および実習Ⅲ	木造応用および実習Ⅴ	木造住宅設計および実習Ⅱ	RC構造物診断および実習	建築士専門インターンシップ							
						木造応用および実習Ⅰ	木造応用および実習Ⅳ	木造応用および実習Ⅵ	建築応用設計および実習Ⅴ	木造住宅設計および実習Ⅲ								
						木造応用および実習Ⅱ	RC構造物応用および実習Ⅰ	構造物強度設計および実習	建設積算Ⅰ	建築応用設計および実習Ⅵ								
							環境設計および実習B	RC構造物応用および実習Ⅱ	新耐震設計法および演習	地震防災工学								
							建築応用設計および実習Ⅲ	建築応用設計および実習Ⅳ	ランドスケープ設計および実習Ⅱ									
								環境調査測定および実習										
								西洋建築史										

Ⅱ-5. ナンバリング

この表は、建設学科で開講される授業科目に番号を付して分類することで、学修の段階や順序等を示しています。カリキュラムツリーとあわせて、履修の計画を立てる際の参考にしてください。

灰色：必修科目

授業科目の名称 (正式名称案)	第1区分			第2区分			第3区分						
	学科	学年	コース 共通 C 木道T 都市S .F.D	履修区 分	科目区 分	授業形態	分野 コード	当年	クオータ	時間数	単位数		
				必修:1	教養:1	講1,演2,講 義演習3							
				選択必修:2	専門:2	実習実験4							
				選択:3	IS:3	講義実習5					必修	選択	選択必修
Fゼミ	B	1	C	1	2	1	a01	1	1・4	2	2		
基礎ゼミ	B	2	C	1	2	1	a02	2	1,3,4	2	2		
応用ゼミ	B	3	C	1	2	1	a03	3	3,4	2	2		
Lゼミ	B	4	C	1	2	1	a04	4	通年	2	8		
一般基礎インターンシップ	B	2	C	1	3	4	a11	2	2	40日	8		
建築士基礎インターンシップ	B	2	C	1	3	4	a12	2	2	40日	8		
測量基礎インターンシップ	B	2	C	1	3	4	a13	2	2	40日	8		
一般専門インターンシップ	B	4	C	3	3	4	a21	4	1～3	40日		8	
建築士専門インターンシップ	B	4	C	3	3	4	a22	4	1～3	40日		8	
測量専門インターンシップ	B	4	C	3	3	4	a23	4	1～3	40日		8	
卒業研究および制作	B	4	C	1	2	4	a31	4	通年	4Q分	12		
建設概論	B	1	C	3	2	1	b01	1	3	1		1	
住宅論	B	2	T	3	2	1	b02	2	3	1		1	
西洋建築史	B	3	C	3	2	1	b03	3	2	1		1	
日本建築史	B	3	C	3	2	1	b04	3	1	1		1	
近現代建築史	B	3	C	3	2	1	b05	3	3	1		1	
保全・保存修復学	B	3	C	3	2	1	b06	3	4	1		1	
建築計画Ⅰ	B	1	C	1	2	1	b11	1	3	1	1		
建築計画Ⅱ	B	2	D	3	2	1	b12	2	3	1		1	
人間工学	B	2	F	3	2	1	b13	2	3	1		1	
景観計画	B	3	D	3	2	1	b14	3	2	1		1	
建築観察学	B	3	D	3	2	1	b15	3	3	1		1	
基礎設計製図および実習Ⅰ	B	1	D	3	2	5	c01	1	1	2		1.5	
基礎設計製図および実習Ⅱ	B	1	D	3	2	5	c02	1	2	2		1.5	
基礎設計製図および実習Ⅲ	B	1	D	1	2	5	c03	1	3	2	1.5		
基礎設計製図および実習Ⅳ	B	1	D	3	2	5	c04	1	4	2		1.5	
基礎設計製図および実習Ⅴ	B	2	D	3	2	5	c05	2	1	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅰ	B	2	D	3	2	5	c06	2	3	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅱ	B	2	D	3	2	5	c07	2	4	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅲ	B	3	D	3	2	5	c08	3	1	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅳ	B	3	D	3	2	5	c09	3	2	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅴ	B	3	D	3	2	5	c10	3	3	2		1.5	
建築応用設計および実習Ⅵ	B	3	D	3	2	5	c11	3	4	2		1.5	
ユニバーサルデザイン設計および実習	B	3	D	3	2	5	c12	3	4	2		1.5	
インテリア計画	B	2	F	3	2	1	d01	2	4	1		1	
インテリア設計および実習	B	3	F	3	2	5	d02	3	1	2		1.5	
建設CADおよび実習Ⅰ	B	2	C	3	2	5	e01	2	1	2		1.5	
建設CADおよび実習Ⅱ	B	3	D	3	2	5	e02	3	1	2		1.5	
建設CADおよび実習Ⅲ	B	3	D	3	2	5	e03	3	2	2		1.5	
建築環境工学A	B	2	C	1	2	1	f01	2	3	1	1		
建築環境工学B	B	2	C	3	2	1	f02	2	3	1		1	
環境設計および実習A	B	2	D	3	2	5	f03	2	4	2		1.5	

授業科目の名称 (正式名称案)	学科	学年	コース 共通 C 木道T 都市S .F.D	履修区 分 必修:1 選択必 修:2 選択:3	科目区 分 教養:1 専門:2 IS:3	授業形態 講1.演2.講 義演習3 実習実験4 講義実習5	分野 コード	当年	クォータ	時間数	単位数		
											必修	選択	選択必修
環境設計および実習B	B	3	D	3	2	5	f04	3	1	2		1.5	
環境調査測定および実習	B	3	D	3	2	5	f05	3	2	2		1.5	
建築設備工学A	B	2	C	3	2	1	f11	2	4	1		1	
建築設備工学B	B	3	C	3	2	1	f12	3	1	1		1	
建築設備設計および実習I	B	3	D	3	2	5	f13	3	3	2		1.5	
建築設備および実習	B	3	D	3	2	5	f14	3	3	2		1.5	
建築設備設計および実習II	B	3	D	3	2	5	f15	3	4	2		1.5	
建築法規 I	B	3	C	1	2	1	g01	3	1	1	1		
建築法規 II	B	3	C	3	2	1	g02	3	2	1		1	
建築法規III	B	3	C	3	2	1	g03	3	3	1		1	
基礎数学 I	B	1	C	3	2	1	h01	1	1	1		1	
基礎数学 II	B	1	C	3	2	1	h02	1	2	1		1	
構造力学 I	B	1	C	1	2	1	h03	1	3	1	1		
構造力学 II	B	1	C	3	2	1	h04	1	4	1		1	
材料力学 I	B	2	C	3	2	1	h05	2	1	1		1	
材料力学 II	B	2	C	3	2	1	h06	2	3	1		1	
応用力学	B	2	C	3	2	1	h07	2	4	1		1	
新耐震設計法および演習	B	3	S	3	2	3	h08	3	3	2		2	
地震防災工学	B	3	S	3	2	1	h09	3	4	1		1	
構工法 I	B	1	C	3	2	1	i01	1	1	1		1	
構工法 II	B	1	C	3	2	1	i02	1	2	1		1	
建築施工	B	2	C	3	2	1	i03	2	1	1		1	
建築生産	B	2	C	3	2	1	i04	2	4	1		1	
BIMおよび実習 I	B	3	S	3	2	1	i05	3	3	2		1.5	
安全工学	B	1	C	3	2	1	i11	1	2	1		1	
工程計画 I	B	2	C	3	2	1	i12	2	1	1		1	
工程計画 II	B	3	C	3	2	1	i13	3	1	1		1	
建設積算 I	B	3	C	3	2	1	i21	3	3	1		1	
建設積算 II	B	3	C	3	2	1	i22	3	4	1		1	
木造基礎および実習 I	B	1	T	3	2	5	m01	1	1	2		1.5	
木造基礎および実習 II	B	1	T	3	2	5	m02	1	2	2		1.5	
木造基礎および実習 III	B	1	T	3	2	5	m03	1	3	2		1.5	
木造基礎および実習 IV	B	1	T	3	2	5	m04	1	4	2		1.5	
木造基礎および実習 V	B	2	T	3	2	5	m05	2	1	2		1.5	
木造応用および実習 I	B	2	T	3	2	5	m06	2	4	2		1.5	
木造応用および実習 II	B	2	T	3	2	5	m07	2	4	2		1.5	
木割と規矩	B	2	T	3	2	1	m08	2	4	1		1	
木造応用および実習 III	B	3	T	3	2	5	m09	3	1	2		1.5	
木造応用および実習 IV	B	3	T	3	2	5	m10	3	1	2		1.5	
木造応用および実習 V	B	3	T	3	2	5	m11	3	2	2		1.5	
木造応用および実習 VI	B	3	T	3	2	5	m12	3	2	2		1.5	
木造応用および実習 VII	B	3	T	3	2	5	m13	3	3	2		1.5	
木造応用および実習 VIII	B	3	T	3	2	5	m14	3	3	2		1.5	
木造軸組工法	B	3	T	3	2	1	m21	3	1	1		1	
木質構造新工法	B	3	T	3	2	1	m22	3	2	1		1	
木質構造設計演習 I	B	3	T	3	2	2	m31	3	3	1		1	
木質構造設計演習 II	B	3	T	3	2	2	m32	3	4	1		1	
木質構造および実験 I	B	3	T	3	2	5	m33	3	3	2		1.5	
木質構造および実験 II	B	3	T	3	2	5	m34	3	4	2		1.5	

授業科目の名称 (正式名称案)	学科	学年	コース 共通 C 木道T 都市S .F.D	履修区 分 必修:1 選択必修:2 選択:3	科目区 分 教養:1 専門:2 IS:3	授業形態 講1.演2.講 義演習3 実習実験4 講義実習5	分野 コード	当年	クオータ	時間数	単位数		
											必修	選択	選択必修
木造住宅設計および実習Ⅰ	B	3	T	3	2	5	m41	3	2	2		1.5	
木造住宅設計および実習Ⅱ	B	3	T	3	2	5	m42	3	3	2		1.5	
木造住宅設計および実習Ⅲ	B	3	T	3	2	5	m43	3	4	2		1.5	
木材基礎	B	1	C	3	2	1	k01	1	2	1		1	
木質材料および木材乾燥	B	1	C	3	2	1	k02	1	4	1		1	
木材工学	B	3	F	3	2	1	k03	3	1	1		1	
木材加工法	B	3	F	3	2	1	k04	3	2	1		1	
家具技能および実習Ⅰ	B	3	F	3	2	5	k05	3	2	2		1.5	
家具技能および実習Ⅱ	B	3	F	3	2	5	k06	3	3	2		1.5	
家具技能および実習Ⅲ	B	3	F	3	2	5	k07	3	3	2		1.5	
家具技能および実習Ⅳ	B	3	F	3	2	5	k08	3	4	2		1.5	
家具技能および実習Ⅴ	B	3	F	3	2	5	k09	3	4	2		1.5	
仕上基礎および実習Ⅰ	B	1	F	3	2	5	m01	1	1	2		1.5	
仕上基礎および実習Ⅱ	B	1	F	3	2	5	m02	1	2	2		1.5	
仕上基礎および実習Ⅲ	B	1	F	3	2	5	m03	1	3	2		1.5	
仕上基礎および実習Ⅳ	B	1	F	3	2	5	m04	1	4	2		1.5	
仕上基礎および実習Ⅴ	B	2	F	3	2	5	m05	2	1	2		1.5	
仕上材料学	B	2	C	3	2	1	m06	2	1	1		1	
湿式仕上技能および実習	B	2	F	3	2	5	m07	2	3	2		1.5	
乾式仕上技能および実習	B	2	F	3	2	5	m08	2	4	2		1.5	
仕上げ・下地・乾式・湿式	B	3	F	3	2	1	m09	3	3	1		1	
外装仕上および実習Ⅰ	B	3	F	3	2	5	m10	3	4	2		1.5	
外装仕上および実習Ⅱ	B	3	F	3	2	5	m11	3	4	2		1.5	
構造基礎および実習Ⅰ	B	1	S	3	2	5	n01	1	1	2		1.5	
構造基礎および実習Ⅱ	B	1	S	3	2	5	n02	1	2	2		1.5	
構造基礎および実習Ⅲ	B	1	S	3	2	5	n03	1	3	2		1.5	
構造基礎および実習Ⅳ	B	1	S	3	2	5	n04	1	4	2		1.5	
構造基礎および実習Ⅴ	B	2	S	3	2	5	n05	2	1	2		1.5	
鋼構造物応用および実習	B	2	S	3	2	5	n06	2	3	2		1.5	
鋼構造	B	2	S	3	2	1	n07	2	4	1		1	
RC構造物応用および実習Ⅰ	B	3	S	3	2	5	n08	3	1	2		1.5	
RC施工	B	3	S	3	2	1	n09	3	1	1		1	
鉄筋コンクリート構造	B	3	S	3	2	1	n10	3	1	1		1	
RC構造物応用および実習Ⅱ	B	3	S	3	2	5	n11	3	2	2		1.5	
伝統構法構造物および実習Ⅰ	B	2	S	3	2	5	n21	2	3	2		1.5	
伝統構法構造物および実習Ⅱ	B	2	S	3	2	5	n22	2	3	2		1.5	
測量基礎および実習	B	1	C	3	2	5	p01	1	1	2		1.5	
測量Ⅰ	B	2	C	3	2	1	p02	2	3	1		1	
測量および実習Ⅰ	B	2	C	3	2	5	p03	2	3	2		1.5	
測量Ⅱ	B	2	C	3	2	1	p04	2	4	1		1	
測量および実習Ⅱ	B	2	C	3	2	5	p05	2	4	2		1.5	
地盤工学	B	1	C	3	2	1	p11	1	4	1		1	
地盤調査土質実験および実習	B	3	S	3	2	5	p12	3	1	2		1.5	
水理・土質工学	B	3	S	3	2	1	p13	3	2	1		1	
水防工学	B	3	S	3	2	1	p14	3	2	1		1	
社会基盤	B	1	C	3	2	1	p21	1	4	1		1	
都市計画	B	1	C	3	2	1	p22	1	4	1		1	
都市インフラおよび実習	B	3	S	3	2	5	p23	3	1	2		1.5	
自然・都市	B	3	S	3	2	1	p24	3	2	1		1	

授業科目の名称 (正式名称案)	学科	学年	コース 共通 C 木道T 都市S .F,D	履修区 分 必修:1 選択必 修:2 選択:3	科目区 分 教養:1 専門:2 IS:3	授業形態 講1,演2,講 義演習3 実習実験4 講義実習5	分野 コード	当年	クォータ	時間数	単位数		
											必修	選択	選択必修
建設マネジメント	B	3	S	3	2	1	p25	3	4	1		1	
構造物強度設計および実習	B	3	S	3	2	5	p31	3	2	2		1.5	
RC構造物診断および実習	B	3	S	3	2	5	p32	3	4	2		1.5	
BIMおよび実習Ⅱ	B	3	S	3	2	5	p33	3	4	2		1.5	
ランドスケープ設計および実習Ⅰ	B	3	F	3	2	5	q01	3	2	2		1.5	
ランドスケープ設計および実習Ⅱ	B	3	F	3	2	5	q02	3	3	2		1.5	
造園・ガーデニング技法	B	3	F	3	2	1	q03	3	1	1		1	
ものづくり・ひとづくり総合講義A	B	1	C	2	1	1	u01	1	2	2			2
ものづくり・ひとづくり総合講義B	B	3	C	2	1	1	u02	3	1	1			1
スポーツ・コミュニケーション	B	1	C	2	1	1	u11	1	3	1			1
社会人基礎力育成講座Ⅰ	B	1	C	2	1	1	u21	1	通年	1			1
社会人基礎力育成講座Ⅱ	B	2	C	1	1	1	u22	2	1,3,4	1	1		
社会人基礎力育成講座Ⅲ	B	3	C	2	1	1	u23	3	通年	1			1
社会人基礎力育成講座Ⅳ	B	4	C	2	1	1	u24	4	通年	1			1
安全衛生	B	1	C	1	1	1	t01	1	1	1	1		
救命衛生法	B	2	C	2	1	1	t02	2	1	1			1
創作実習A	B	1	C	2	1	4	t11	1	2(夏季集中)	1			1
創作実習B	B	1	C	2	1	4	t12	1	2(夏季集中)	1			1
ICT基礎および実習Ⅰ	B	1	C	1	1	5	t21	1	1	2	1.5		
データリテラシー・AI基礎	B	1	C	1	1	5	t22	1	2	1	1		
ICT基礎および実習Ⅱ	B	1	C	2	1	5	t23	1	3	2			1.5
デザイン思考	B	1	C	2	1	1	t31	1	4	1			1
英語Ⅰ	B	1	C	2	1	1	v01	1	3	2			2
英語Ⅱ	B	1	C	2	1	1	v02	1	4	2			2
英語Ⅲ	B	2	C	2	1	1	v03	2	1	2			2
SDGs-A	B	2	C	2	1	1	v11	2	3	1			1
SDGs-B	B	2	C	2	1	1	v12	2	4	1			1
言語と文化	B	3	C	2	1	1	v21	3	2	1			1
日本文化論	B	3	C	2	1	1	v31	3	3	1			1
梅原猛で学ぶ学問と世界	B	4	C	2	1	1	v32	4	1	1			1
文明と社会	B	3	C	2	1	1	v41	3	4	1			1
Druckerで学ぶマネジメント	B	4	C	2	1	1	v42	4	2	1			1
留学生日本語Ⅰ	B	1	C	2	1	1	v51	1	1	2			2
留学生日本語能力演習	B	1	C	2	1	2	v53	1	4	1			1
留学生日本語Ⅱ	B	2	C	2	1	1	v52	2	1	1			1

Ⅲ．資格関連指定科目

施工管理技士（※）の受験資格取得のための指定科目はありません。卒業後、定められた実務経験を経て受験が可能となります。

なお、二級の第一次検定に関しては、在学中に受験することができます。第一次検定に合格すると施工管理技士補の資格が取得できます。

（※建築・土木・建設機械・電気工事・管工事・造園）

・ 建築士資格試験指定科目一覧表		80
・ 測量士補の資格取得に必要な単位		83
・ 商業施設士補指定科目一覧表		84

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図 実務0～2年 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	基礎設計製図および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅲ	1	必修	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		建設CADおよび実習Ⅰ	2	選択	1.5
		建設CADおよび実習Ⅱ	3	選択	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		インテリア設計および実習	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅳ	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅴ	3	選択	1.5
		建築応用設計および実習Ⅵ	3	選択	1.5
単位数小計	単位数小計				
24	24				
②～④ 建築計画、 建築環境工学、 建築設備 実務0～2年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	西洋建築史	3	選択	1
		建築計画Ⅰ	1	必修	1
		近現代建築史	3	選択	1
		人間工学	2	選択	1
		インテリア計画	2	選択	1
		日本建築史	3	選択	1
		住宅論	2	選択	1
		保全・保存修復学	3	選択	1
		景観計画	3	選択	1
		建築観察学	3	選択	1
		建築計画Ⅱ	2	選択	1
		単位数小計			
	11				
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学A	2	必修	1
		建築環境工学B	2	選択	1
		環境調査測定および実習	3	選択	1.5
		環境設計および実習A	2	選択	1.5
		単位数小計			
	5				
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備工学A	2	選択	1
		建築設備工学B	3	選択	1
		建築設備設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		建築設備設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		環境設計および実習B	3	選択	1.5
	単位数小計	単位数小計			
22.5	6.5				
⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構造、 建築材料 実務0～2年 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	材料力学Ⅰ	2	選択	1
		構造力学Ⅰ	1	必修	1
		構造力学Ⅱ	1	選択	1
		材料力学Ⅱ	2	選択	1
		応用力学	2	選択	1
		地震防災工学	3	選択	1
		水理・土質工学	3	選択	1
		新耐震設計法および演習	3	選択	2
	単位数小計	単位数小計			
	9				

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	構工法Ⅰ	1	選択	1
		構工法Ⅱ	1	選択	1
		木造軸組工法	3	選択	1
		木質構造新工法	3	選択	1
		木質構造設計演習Ⅰ	3	選択	1
		木質構造設計演習Ⅱ	3	選択	1
		鉄筋コンクリート構造	3	選択	1
		鋼構造	2	選択	1
		木質構造および実験Ⅱ	3	選択	1.5
	単位数小計				9.5
	⑦建築材料 (2単位以上)	構造基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		仕上材料学	2	選択	1
		木材基礎	1	選択	1
		木質材料および木材乾燥	1	選択	1
		木材工学	3	選択	1
		仕上げ・下地・乾式・湿式	3	選択	1
		木質構造および実験Ⅰ	3	選択	1.5
	単位数小計				8
	26.5				
⑧建築生産 実務0～2年 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	社会基盤	1	選択	1
		木造基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅰ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅳ	1	選択	1.5
		建築生産	2	選択	1
		工程計画Ⅰ	2	選択	1
		工程計画Ⅱ	3	選択	1
		仕上基礎および実習Ⅱ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		仕上基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		構造基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		鋼構造物応用および実習	2	選択	1.5
		RC施工	3	選択	1
		建設マネジメント	3	選択	1
		建設積算Ⅰ	3	選択	1
		建設積算Ⅱ	3	選択	1
		木造応用および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅲ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅳ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅴ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅵ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅶ	3	選択	1.5
		木造応用および実習Ⅷ	3	選択	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		RC構造物応用および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		RC構造物診断および実習	3	選択	1.5
		湿式仕上技能および実習	2	選択	1.5
		乾式仕上技能および実習	2	選択	1.5
		外装仕上および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		外装仕上および実習Ⅱ	3	選択	1.5
	単位数小計				45.5
	45.5				

建築士資格試験 指定科目一覧表

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として承認された開講科目			
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
⑨建築法規 実務0～2年 (1単位以上) 単位数小計	⑨建築法規 (1単位以上) 単位数小計	建築法規Ⅰ	3	必修	1
		建築法規Ⅱ	3	選択	1
		建築法規Ⅲ	3	選択	1
3	3				
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	基礎設計製図および実習Ⅰ	1	選択	1.5
		木造基礎および実習Ⅲ	1	選択	1.5
		測量基礎および実習	1	選択	1.5
		安全工学	1	選択	1
		都市計画	1	選択	1
		測量Ⅰ	2	選択	1
		建設CADおよび実習Ⅲ	3	選択	1.5
		測量および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		木造基礎および実習Ⅴ	2	選択	1.5
		建築士基礎インターンシップ	2	必修	8
		木割と規矩	2	選択	1
		ランドスケープ設計および実習Ⅰ	3	選択	1.5
		ランドスケープ設計および実習Ⅱ	3	選択	1.5
		造園・ガーデニング技法	3	選択	1
		BIMおよび実習Ⅰ	3	選択	1.5
		伝統構法構造物および実習Ⅰ	2	選択	1.5
		伝統構法構造物および実習Ⅱ	2	選択	1.5
		建築設備および実習	3	選択	1.5
		地盤調査土質実験および実習	3	選択	1.5
		建築士専門インターンシップ	4	選択	8
単位数小計	単位数小計				
40.5	40.5				
121.5	121.5	①～⑨の単位数合計			
162	162	総単位数(①～⑩の単位数合計)			

建築士試験別、指定科目にかかる必要単位数と必要な建築実務の経験年数

【学校種別：大卒】						
指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
① 建築設計製図	7単位			3単位		
② 建築計画	7単位			2単位		
③ 建築環境工学	2単位					
④ 建築設備	2単位					
⑤ 構造力学	4単位			3単位		
⑥ 建築一般構造	3単位					
⑦ 建築材料	2単位					
⑧ 建築生産	2単位			1単位		
⑨ 建築法規	1単位			1単位		
①～⑨の計（a）	30単位			10単位		
⑩ その他（b）	適宜			適宜		
（a）+（b）	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
受験資格	卒業後0年			卒業後0年		
免許登録に必要な 実務経験年数	卒業後2年	卒業後3年	卒業後4年	卒業後0年	卒業後1年	卒業後2年

測量士補の資格取得に必要な単位

建設学科(GSコース) ※必修科目27.5単位と選択科目2.5単位以上を取得し、かつ卒業条件を満たすこと。

指定科目の分類	指定科目一覧		
	科目名	配当年次	単位数
(必修科目)	構造力学Ⅰ	1	1.0
(27.5単位)	基礎数学Ⅰ	1	1.0
	基礎数学Ⅱ	1	1.0
	構造力学Ⅱ	1	1.0
	地盤工学	1	1.0
	測量基礎および実習	1	1.5
	都市計画	1	1.0
	材料力学Ⅰ	2	1.0
	測量Ⅰ	2	1.0
	測量Ⅱ	2	1.0
	測量および実習Ⅰ	2	1.5
	測量および実習Ⅱ	2	1.5
	測量基礎インターンシップ	2	8.0
	水理・土質工学	3	1.0
	自然・都市	3	1.0
	構造物強度設計および実習	3	1.5
	地盤調査土質実験および実習	3	1.5
	建設マネジメント	3	1.0
単位数小計	27.5		
(選択科目)	社会基盤	1	1.0
(15.5単位の中から2.5単位以上)	材料力学Ⅱ	2	1.0
	応用力学	2	1.0
	鋼構造	2	1.0
	鉄筋コンクリート構造	3	1.0
	水防工学	3	1.0
	都市インフラおよび実習	3	1.5
	測量専門インターンシップ	4	8.0
単位数小計	15.5		

商業施設士補 指定科目一覧表

A群(学科試験に準拠)

区分	内容/考えられる科目の一例	充当する教科名	単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	建設マネジメント	1.0
		日本文化論	1.0
		単位数小計	2.0
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目		
		単位数小計	
A-3 計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目	都市計画	1.0
		人間工学	1.0
		日本建築史	1.0
		西洋建築史	1.0
		近現代建築史	1.0
		インテリア計画	1.0
		景観計画	1.0
		安全工学	1.0
		建築環境工学B	1.0
		建築設備工学B	1.0
		自然・都市	1.0
		単位数小計	11.0
A-4 施設計画	建築一般に関する科目	工程計画Ⅰ	1.0
		工程計画Ⅱ	1.0
		建築法規Ⅱ	1.0
		建築法規Ⅲ	1.0
		建設積算Ⅰ	1.0
		建設積算Ⅱ	1.0
		BIMおよび実習Ⅰ	1.5
		鉄筋コンクリート構造	1.0
		鋼構造	1.0
		構工法Ⅱ	1.0
		木材基礎	1.0
		木質材料および木材乾燥	1.0
		木材工学	1.0
		単位数小計	13.5
A-5 監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目	仕上材料学	1.0
		仕上げ・下地・乾式・湿式	1.0
		RC施工	1.0
		仕上基礎および実習Ⅴ	1.5
		測量基礎および実習	1.5
		木質構造新工法	1.0
		木造応用および実習Ⅰ	1.5
		木造応用および実習Ⅱ	1.5
		木造応用および実習Ⅲ	1.5
		木造応用および実習Ⅳ	1.5
		木造応用および実習Ⅴ	1.5
		木造応用および実習Ⅵ	1.5
		木造応用および実習Ⅶ	1.5
		木造応用および実習Ⅷ	1.5
		木質構造および実験Ⅰ	1.5
		木質構造および実験Ⅱ	1.5
		木造基礎および実習Ⅰ	1.5
		木造基礎および実習Ⅱ	1.5

	木造基礎および実習Ⅲ	1.5
	木造基礎および実習Ⅳ	1.5
	構造基礎および実習Ⅰ	1.5
	構造基礎および実習Ⅱ	1.5
	構造基礎および実習Ⅲ	1.5
	湿式仕上技能および実習	1.5
	乾式仕上技能および実習	1.5
	家具技能および実習Ⅰ	1.5
	家具技能および実習Ⅱ	1.5
	家具技能および実習Ⅲ	1.5
	家具技能および実習Ⅳ	1.5
	家具技能および実習Ⅴ	1.5
	構造力学Ⅰ	1.0
	構造力学Ⅱ	1.0
	材料力学Ⅱ	1.0
	建築設備および実習	1.5
	地盤調査土質実験および実習	1.5
	RC構造物応用および実習Ⅰ	1.5
	RC構造物応用および実習Ⅱ	1.5
	伝統構法構造物および実習Ⅰ	1.5
	伝統構法構造物および実習Ⅱ	1.5
単位小計		55.0
	A群の単位数合計	81.5

B群(構想表現(実技)試験に準拠)

区分	内容/考えられる科目の一例	充当する教科名	単位数
B-1 図案表現	設計・製図・CAD・CGなどにより、 商業施設を構想し表現することに関する科目	木質構造設計演習Ⅰ	1.0
		木質構造設計演習Ⅱ	1.0
		基礎設計製図および実習Ⅰ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅱ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅲ	1.5
		基礎設計製図および実習Ⅳ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅰ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅱ	1.5
		建設CADおよび実習Ⅲ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅰ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅱ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅲ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅳ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅴ	1.5
		建築応用設計および実習Ⅵ	1.5
		インテリア設計および実習	1.5
		ランドスケープ設計および実習Ⅰ	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅰ	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅱ	1.5
		木造住宅設計および実習Ⅲ	1.5
		単位小計	29.0
B-2 文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目		
		単位小計	
		B群の単位数合計	29.0
		総単位数(A群とB群の合計)	110.5

※A群から計30単位以上+B群から4単位以上修得し、指定された商業施設に係る科目を修得し、商業施設士補講習会を受講修了すること

D. 教養教育

(2026 年度入学者適用)

I. カリキュラム (教育課程)

II. 授業科目

※授業に関しては毎年、一部変更が生じることがあるため、WEBシラバスにて常に最新情報を入手のうえ、履修計画を作成してください。

I. カリキュラム（教育課程）

I-1. ディプロマ・ポリシー	 91
I-2. カリキュラム・ポリシー	 93

II. 授業科目

II-1. カリキュラムツリー	 94
-----------------	----------

I-1. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学を卒業するテクノロジストには、ものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らに一流の仕事を要求し、常に基準を高く定め、ものづくりにアプローチすることが期待されている。そのために、テクノロジストとして必要な基礎学力、専門的知識、技術技能に合わせ、知識人としての教養教育を身につけさせて専門教育と両輪で育成する。

- ①ものづくりを実践することから得られる創意工夫する力（現場力）
- ②課題を見出しチームで協力したりリーダーとなって解決する力（課題設定・解決力、マネジメント力）
- ③困難に向き合い乗り越える力（耐力、胆力）
- ④異文化など多様性を受容、尊重でき、科学技術、社会経済のグローバル化に対応できる力（協調力）
- ⑤価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合える力（コミュニケーション力）

ディプロマ・ポリシーとの関連

群	授業科目	配当年次	①	②	③	④	⑤
ものづくり系科目群	安全衛生	1	○	○	○	○	○
	データリテラシー・AI 基礎	1	○	○			
	ICT 基礎および実習Ⅰ	1	○				
	ICT 基礎および実習Ⅱ	1	○				
	創作実習 A(夏期)	1	○		○		
	創作実習 B(夏期)	1	○		○		
	デザイン思考	1		○		○	○
	救命衛生法	2	○	○	○	○	○
ひとつづくり系科目群	ものづくり・ひとつづくり総合講義 A	1			○	○	○
	ものづくり・ひとつづくり総合講義 B	3			○	○	○
	社会人基礎力育成講座Ⅰ	1			○		○
	社会人基礎力育成講座Ⅱ	2		○	○		○
	社会人基礎力育成講座Ⅲ	3		○	○	○	
	社会人基礎力育成講座Ⅳ	4		○	○	○	○
	スポーツ・コミュニケーション	1	○	○	○	○	○
	ものづくり基礎探究（高大連携）			○			○
リベラルアーツ系科目群	留学生日本語Ⅰ	1				○	○
	英語Ⅰ	1				○	○
	英語Ⅱ	1				○	○
	留学生日本語能力演習	1			○	○	○
	留学生日本語Ⅱ	2				○	○
	英語Ⅲ	2				○	○
	SDGs-A	2			○	○	○
	SDGs-B	2			○	○	○
	言語と文化	3				○	○
	日本文化論	3			○	○	○
	文明と社会	3			○	○	
	梅原猛で学ぶ学問と世界	4				○	○
	Drucker で学ぶマネジメント	4				○	○

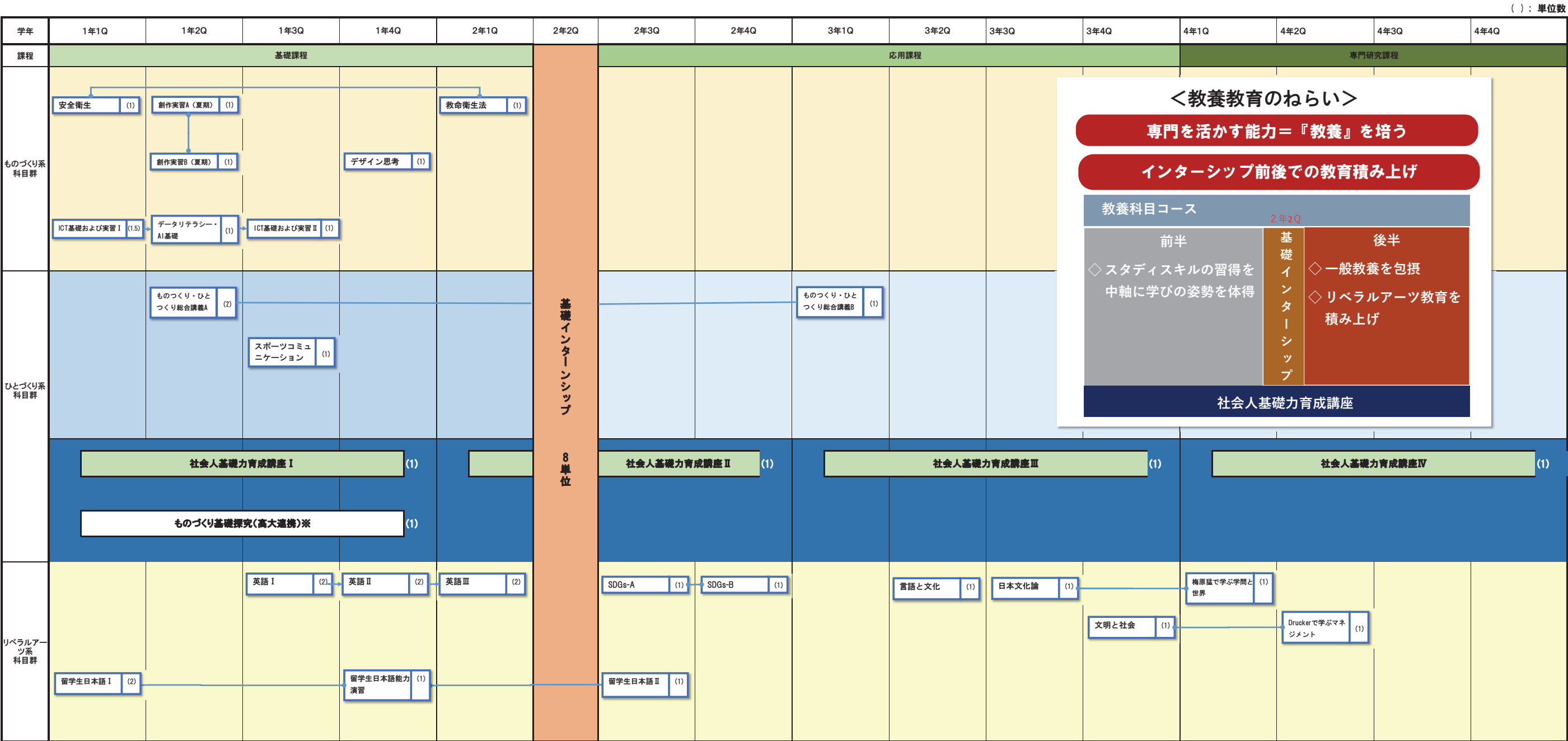
I-2. カリキュラム・ポリシー

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、技能工芸学部では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ①入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制（quarter 制度）の下で1 年1 学期から 2 年 2 学期までを「基礎課程」、2 年 3 学期から 3 年 4 学期までを「応用課程」、そして 4 年 1 学期から 4 年 4 学期までを「専門研究課程」とし、各学科において段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ②基礎課程では基礎的な専門知識を学び、基礎インターンシップにて実務を体験し、応用課程では創意工夫が行える総合的な実践力を修得し、専門研究課程では卒業研究により即戦力として社会に貢献できる技術・技能を養うものとする。詳細は各学科が定めるカリキュラム・ポリシーや各専門コースのエデュケーション・ポリシーを基軸に、カリキュラムを編成する。
- ③上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、本学が標榜するテクノロジスト育成に必要な不可欠となる教養科目もカリキュラムに配当する。基礎課程の初年次教育に始まり、応用課程では人文・社会科学さらに自然科学を学び、専門研究課程では本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解することで、社会に巣立つテクノロジストとしての社会性・倫理性を身に付ける。

Ⅱ-1. カリキュラムツリー

この図は、教養教育の授業科目間の関連を学習内容の概要と共に示しています。
必修科目を含め12単位以上を修得することが求められています。
「ものづくり系科目群」「ひとづくり科目群」「リベラルアーツ科目群」からバランスよく履修計画を立てる際の参考にしてください。



※開講予定は別途案内する

<教養教育のねらい>

専門を活かす能力＝『教養』を培う

インターシッ前後での教育積み上げ

教養科目コース

2年2Q

前半
◇スタディスキルの習得を
中軸に学びの姿勢を体得

基礎
インター
ン
シ
ッ
プ

後半
◇一般教養を包摂
◇リベラルアーツ教育を
積み上げ

社会人基礎力育成講座

No.

Name

--	--